

教育文化学部

学校教育課程

人間社会課程

医学部

医学科

看護学科

工学部

材料物理工学科

物質環境化学科

電気電子工学科

土木環境工学科

機械システム工学科

情報システム工学科

農学部

植物生産環境科学科

森林緑地環境科学科

応用生物科学科

海洋生物環境学科

畜産草地科学科

獣医学科



世界を視野に 地域から始めよう

平成22年度



宮崎大学概要

『世界を視野に 地域から始めよう』

宮崎大学長

菅 沼 龍 夫



宮崎大学は平成15年10月（2003年）に旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、教育文化学部、医学部、工学部ならびに農学部からなる新生宮崎大学として「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンを掲げ、新たな歩みを始めました。およそ5,600名の学生と1,400名の教職員を擁しています。

宮崎大学はこの間に、統合、法人化のメリットを活かした特色ある大学改革に積極的に取り組んできました。平成19年（2007年）には農学と工学が融合した全国初の農学工学総合研究科博士後期課程を開設し、宮崎県の

基幹産業である農林畜産水産業の振興はもとより、太陽光発電システムの教育研究拠点形成をはじめとする工業振興にも組織的に取り組んでいます。平成20年（2008年）には教育現場での指導的教員を養成するために、全国に先駆けて教職大学院（教育学研究科教職実践開発専攻）を設置することができました。さらに、本年、平成22年（2010年）4月には医学および獣医学という極めて密接な学問的背景と宮崎県が日本でも有数の畜産県であるという特色も踏まえて、医学と獣医学が融合した、全国初の医学獣医学総合研究科博士課程が開設されたところです。21世紀の喫緊の課題である人獣共通感染症や食糧問題を始めとする医学・獣医学分野の諸課題を解決できる人材を育成します。

国立大学法人としての第2期中期目標・中期計画が本年度から始まりました。大学の基本目標として、宮崎大学は「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、変動する時代並びに多様な社会の要請に応え、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、有為の人材を社会に送り出す。国際的に通用する研究活動を積極的に行い、その成果を大学の教育に反映させると共に、地域を始め広く社会の発展に役立てる。人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向すると謳っています。

21世紀は生命科学、環境科学、エネルギー科学の時代であるとも言われています。地球規模で考えますと、私たちは温暖化問題、開発途上国を中心とした人口の急激な増加、安全な飲料水の確保と食糧問題、そして、新興・再興感染症の流行など、さまざまな解決すべき課題と直面しています。

医学部附属病院は宮崎県唯一の特定機能病院として宮崎県民の医療・福祉の向上に取り組んで参りました。本年5月からは病院再整備事業の一環として新外来診療棟が完成し、外来診療が開始されました。一連の再整備事業が完了しますと、名実共に最先端医療を担う、地域の中核医療拠点として生まれ変わります。また、地域医療を担う医師不足の解消を目指して宮崎県と連携して地域医療学講座が本年度からスタートしています。

宮崎大学は上述の基本目標に沿って、生命科学、環境科学、エネルギー科学の分野において、国際的に通用する、特色ある高度な学術研究を宮崎から世界へ発信し、地球規模で自らの将来を俯瞰できる人材を育成、輩出し、地域の知の拠点として燦々銀のように輝き続ける大学を目指して、不断の改革に取り組んでいます。

平成22年度

宮崎大学概要

CONTENTS

■ 学長挨拶	1
■ 目次	2
■ 大学の理念・目的	3
■ シンボルマークについて	3
■ 大学のスローガン	3
■ 宮崎大学の歌	3
■ 年間スケジュール	4
■ 沿革	4
■ 教育の特色	5
■ 研究の特色	7
学部紹介	
■ 教育文化学部	9
■ 医学部	11
■ 工学部	13
■ 農学部	15
大学院紹介	
■ 教育学研究科	17
■ 医科学看護学研究科	18
■ 工学研究科	19
■ 農学研究科	20
■ 医学獣医学総合研究科	21
■ 農学工学総合研究科	22
■ 附属図書館	23
■ 学内共同教育研究施設	24
■ 安全衛生保健センター	25
■ 情報化推進組織	25
■ 国際交流	26
■ 地域貢献	27
■ アクセス	28
■ キャンパスマップ	29
■ 資料編	31

大学の理念・目的

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指す。また、変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を使命とする。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向する。

シンボルマークについて

宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。

また、緑(グリーン)と青(ブルー)の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある大学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。



大学のスローガン

世界を視野に 地域から始めよう

宮崎大学の歌

作詞:熊瀬川 逸子 補作:菅 邦男 作曲:斉藤 武

一 空高く 神々の里 ひむかここ日向
青島望むこの台地 まなびや緑茂れる 学舎で
先人の輝く轍 わたち踏みしめて
未来に架ける若人の みちしるべ夢と希望の道標
宮崎大学

二 ひゅうがなだ日向灘 はま浜木綿の顔色 暖かく
きら煌めく白い波のごとく こころ心優しく清らかに
このはな木花の風土が はぐく育む命愛し
真理を求め 学びゆく 夢と希望の道標
宮崎大学

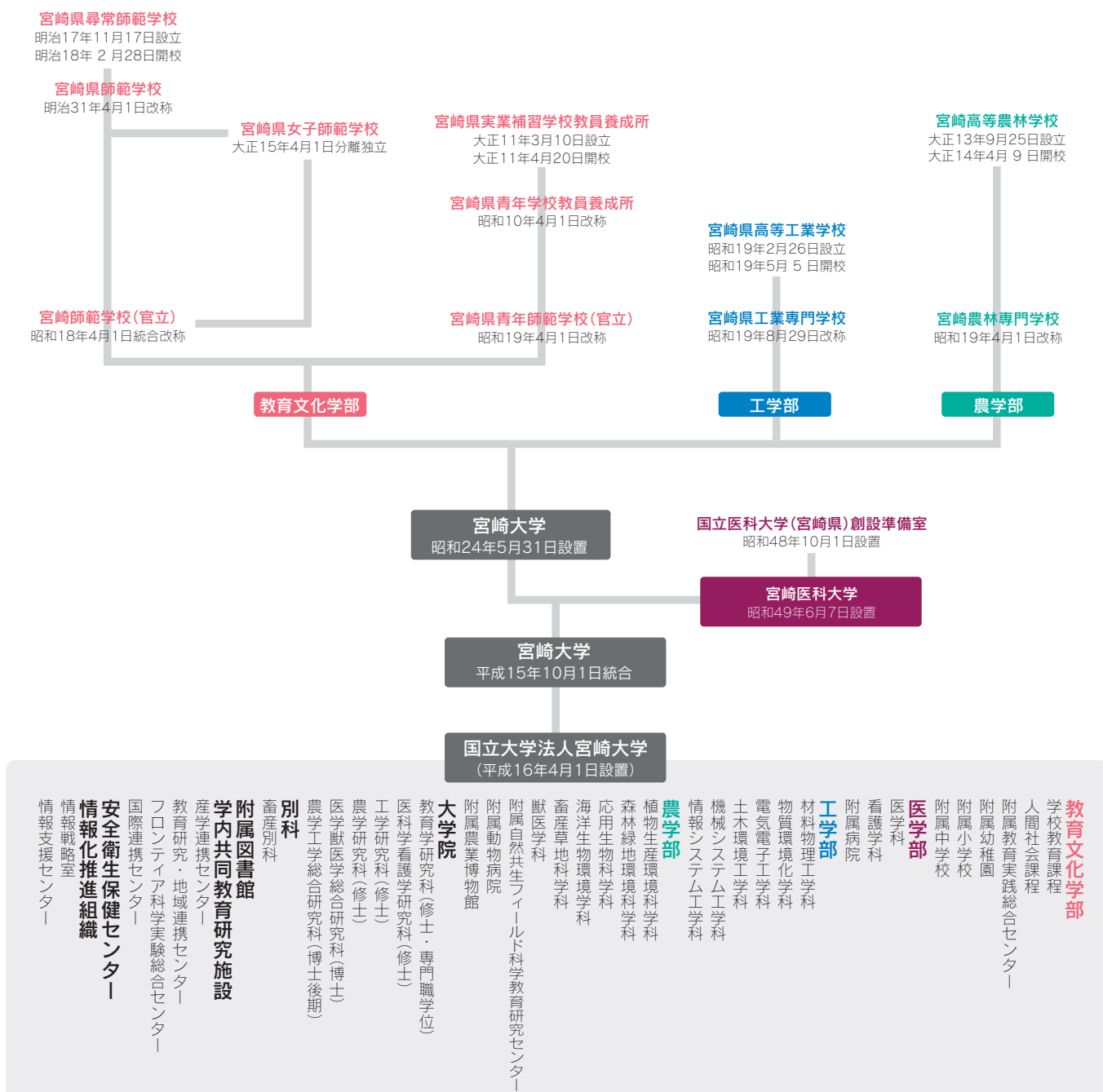
三 やまなみ山脈の美しい姿 おびすぎ飴肥杉の
てんくう天空さして在ることく 理想を高く意志強く
時を翔け自由を旅する 鳥のように
世界に広く羽ばたける 夢と希望の道標
宮崎大学

年間スケジュール

4月	入学式 オリエンテーション 前学期授業開始 新入生歓迎祭	11月	大学祭
7月	前学期定期試験	12月	冬季休業
8月	夏季休業 進学説明会	2月	後学期定期試験
10月	後学期授業開始	3月	卒業式・修了式 春季休業

※変更となる場合もあります。

沿革



宮崎大学の教育の特色

宮崎大学は平成15年10月に旧宮崎大学と宮崎医科大学とが統合し、西南暖地の恵まれた自然を背景にして、生命科学、環境科学、エネルギー科学において特色ある大学創りに取り組み、高度な学術研究成果を地域社会、そして広く世界に向けて発信しています。

本学へ入学した総ての学生さんが先ず学ぶ共通教育として、変動する社会、あるいは自然の様々な変化の中で共生していくための感性や洞察力を養っていきます。また、「宮崎」を学んで地域に根ざし、人生設計に関わるキャリアデザインを学び、かつ、優れたコミュニケーション能力と幅広い人間関係の構築そして世界に羽ばたいていくための語学力向上を目指した学士課程一環英語学習プログラムに取り組み教育の質の向上を図っています。これらは、豊かな学生生活を送り社会に旅立っていくための底辺を構築する重要な教育となっています。

共通教育と同時に学年の進行に伴って各学部の専門教育に関わる基礎知識の導入に始まって応用へと発展していきます。専門教育の特色は、国の施策でもある実践型専門技術者養成プログラムとの連携にあります。すなわち、広く社会に情報・課題を求め、それらを解決していくための実践的な知識、技術を修得し、変動する社会の多様な要請に応じていきます。その中には、地域医療支援など臨床医教育を重視した人材養成に重点を置いていること、専門技術者教育に関して国際的にもその教育効果が保証されるJABEEという認証を受けている学科も多く備えていること、わが国の人獣共通感染症分野の一翼を担っていること、また、太陽光発電や環境負荷低減のための専門技術開発力を学部間や他機関との協力により養成していること、さらに、地域的特性を活かした畜産基地を基盤とした大学連携による教育プログ

ラムを展開などが挙げられます。

今ひとつ、宮崎大学の教育の大きな特色が大学院教育にあります。修士課程では、他大学と協定し動植物の遺伝子操作に関わる専門技術者養成プログラムを実施しています。また、平成19年に農学と工学が融合した全国でも初めての農学工学総合研究科博士後期課程を開設し、平成22年から、わが国には例のない医学と獣医学を融合した医学獣医学総合研究科博士課程を創設しました。このように、他大学やこれまで領域を異にしていた分野を融合させて相互の教育の質を向上させたり、従来手の届き難かった融合領域にも新たな研究者や技術者を輩出していくことに努めています。また、平成20年に教職大学院(教職実践開発専攻)を全国に先駆けて開設し、教育者としての高度な実践力・応用力を備えた新人教員の養成や高度な教育理論に支えられた、教育現場におけるスクールリーダーの養成を行っています。

一方、学生自身が企画、運営、管理し大学や地域社会を活性化していく素養を育成することを目的として、「とつても元気!宮大チャレンジ・プログラム」事業を進めており、これまで多くの学生の皆さんが参加して様々な成果を残しています。このように、大学の教育として、「学ぶ自由を与えられる」のではなく、「自由に学ぶ」という理念に支えられるよう、教職員一丸となって教育活動・改善に取り組んでいます。「学」の発展のためには、基礎・応用、そして様々な分野の力強い連携が必須であり、世界を視野に地域から始める「人」を基軸として、さらに積極的な地域との連携・協力体制を築いていき、この地にこそなくてはならぬ宮崎大学を至高の視座に置いて教職員・学生の努力を積み重ねていこうとしています。



宮崎大学の教育戦略

宮崎大学の教育目標

1. 人間性の教育

- 高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。
- 生命や環境保全の科学に親しむとともに、広く自然や社会に触れ、現場から学ぶ態度を育成する。

2. 社会性・国際性の教育

- 社会の多様な要請に対応して、社会の発展に積極的に貢献できる課題解決能力を育成する。
- 日本語による論理的な思考・記述や発表の能力を育成するとともに、外国語によるコミュニケーション能力を育成する。

3. 専門性の教育

- それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを応用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求および解決能力、自発的に学習する能力を育成する。
- 大学院においては、高度の専門知識、研究能力および教育能力を備えた人材を養成する。

目標を実現するための戦略 (教育の質の向上を図る)

— 学生が伸びる大学教育 —

人間性・社会性・国際性の教育

教養教育の体制の確立
教養教育の教育内容の点検
学生の社会性育成教育の実施

専門性の教育

教育内容・体制の整備
地域を意識した特色ある教育の実施

教育方法の改善

単位の美質化と組織的FD活動の推進

教育方法の検証

根拠資料に基づく評価と教育情報の公開

学生支援・学生支援体制の整備

学習環境の整備
学習状況を分析し、到達度に応じた指導
就職支援体制の強化、社会性育成教育の推進

入学者選抜・選抜方法の改善

学部および大学院入学志願者増加

(注)「人間性」、「社会性・国際性」の教育は、教養教育に限らず教育課程全般に適用されるものである。

教育体系の基本的考え方

学士課程

- 教養教育と専門教育により編成
- 宮崎大学の教育が目指す教育目標に応じた教育課程を編成し質の向上を図る。
- 専門教育においては教養教育と連携を保ち、学部等の専攻に係る専門の学芸を修得し、専門的職業人としての基本的技能・態度を育成する。

大学院課程

- 教育目標に応じた教育課程を編成し、高度専門職業人等を育成するため、高度な専門教育を行う。

宮崎大学の教育プロジェクト (平成22年度現在)

研究課題名等	研究種目等	期 間	学部等
国立大学法人等の教育研究基盤の確保			
生物遺伝資源教育プログラムの国際的展開	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	2010-2014	農学部,FSRC
コミュニケーションスキルを備えた専門職業人育成を目指す学士課程一貫の英語学習プログラムの推進	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	2008-2010	全学
国公立大学を通じた大学教育改革の支援 ※1			
複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成	質の高い大学教育推進プログラム	2008-2010	医学部
中九州三大学病院合同専門医養成プログラム	大学病院連携型高度医療人養成推進事業	2008-	医学部
—地域医療支援と臨床研究推進の共有システム構築—			
自主を促す工学技術者キャリア教育	大学教育・学生支援推進事業【テーマA】	2009-2011	工学部
畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型総合教育プログラム開発	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム	2009-2011	農学部
実践的な人材育成のための医療サービスサイエンス教育プログラムの開発	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム	2009-2011	医学部
文部科学省以外の事業			
太陽光発電関連産業のニーズに応える高度専門性を持つ人材育成プログラム	産業技術人材育成事業[経済産業省]	2009-2010	工学部
社会とつなぐ理数教育プログラムの開発	社会とつなぐ理数教育プログラムの開発[JST/科学技術振興機構]	2009-2010	教育文化学部
地域医療学講座	寄附講座[宮崎県]	2010-2013	医学部
JABEE(ジャビー) ※2			
工学部 土木環境工学科	土木及び土木関連分野	2004-	工学部
工学部 物質環境化学科	化学および化学関連分野(応用化学コース)	2005-	工学部
工学部 電気電子工学科	電気・電子・情報通信およびその関連分野	2005-	工学部
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	2005-	農学部
工学部 機械システム工学科	機械および機械関連分野	2006-	工学部
工学部 情報システム工学科	情報および情報関連分野	2006-	工学部

※1:大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組をサポートする文部科学省のプログラム。 ※2:日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されたこととなります。

※FSRC…フロンティア科学実験総合センター

宮崎大学の研究の特色

宮崎大学の研究の基本理念は、「世界を視野に 地域から始めよう (Look at the World, Start with the Community)」のスローガンのもと、学際的な生命科学の創造と地球環境保全のための科学を志向することです。基礎・基盤の研究、萌芽の研究を継続的に推進しつつ、研究戦略に沿って、生命科学・環境科学・エネルギー科学などの重点領域において国際的に通用する先端的・特色ある研究を推進し、かつ、地域に密着した産学官連携による幅広い研究に取り組んでいます。また、女性研究者および若手研究者も積極的に支援しています。なお、現在、新たな研究戦略を策定中です。

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に「逆風を順風に 宮崎大学女性研究者支援モデル」(平成20～22年度)が採択されています。清武・木花両キャンパスに清花Athenaサポート室が設置され、女性研究者がその能力を十分発揮できるように、環境の整備、教職員意識改革、研究と出産・育児・介護等の両立を目指す取り組みを支援しています。

さらに、科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」にも「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」(平成21～25年度)が採択され、宮崎大学の特色ある異分野融合型研究の中核を担う若手人材の育成を目指して国際公募を行い、国内外から10名の特任助教を採用し、日本型テニュアトラック制度をスタートさせました。

21世紀COEプログラム「生理活性ペプチドと生体システムの制御」(平成14～18年度)は「設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった」との事後評価を受けました。心房性ナトリウム利尿ペプチド、アドレノメデュリン、グレリンをはじめ多数の生理活性ペプチドの発見やその機能解析において世界をリードする実績をあげました。また、JST地域結集型共同研究事業「ウイルス発がんの機序解明と予防・治療法の創出・食の機能性活用の

ための基盤技術の開発」(平成15～20年度)が宮崎県と医学部・農学部・工学部との連携事業として実施され、数多くの成果が生まれました。これらの成果は生理活性ペプチドの探索研究に関する科研費・基盤研究(S)や臨床応用研究に関する厚生労働省科研費をはじめとして、多数の大型競争的資金の採択に繋がっており、今後ますますの発展が期待されます。

平成22年度、我が国では初めて唯一の医学獣医学総合研究科(博士課程)を設置しました。医学と獣医学の密接な学問的背景、これまでの連携協力、本学が有数の畜産県に立地しているなどの特色を踏まえて、医学と獣医学の知を結集し連携・融合することによって、教育研究の更なる充実と深化を図ることを目的としています。並行して、概算要求事項の特別経費「医学獣医学融合による統合動物実験プロジェクト」(平成22～26年度)が採択され、動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究をスパイラル展開することによって、ヒト・動物疾病に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成を図ります。

研究開発施設共用等促進費補助金「ナショナルバイオリソースプロジェクト」の拠点事業「ミヤコグサ・ダイズの遺伝資源の収集・保存・提供」(平成15～23年度)やその他の大型外部資金でライフサイエンス研究の基盤となるバイオリソースの収集・保存・提供や保存技術の開発などの基盤整備を実施しています。

地域の中核大学として産学官連携事業も積極的に推進しています。平成19年度、工学部を中心にして太陽光発電研究プロジェクトを開始し、宮崎県や企業と連携して新しい産業創出の支援を行っています。平成21年度に関連企業と共同で設置した日本最大規模の集光型発電装置の他に、多種類の太陽光発電設備を整備して、同一条件下での発電効率等の研究を推進しています。また、日本の食料基地である南九州に立地していることから、地域資源活用事業などの異分野連携融合事業を多数

実施しています。概算要求事項の特別経費「農林畜産廃棄物利用による地域資源循環システムの構築」(平成18～22年度)、「高機能触媒反応によるバイオマス資源のバイオ燃料及びバイオ有価物への変換プロセスの開発」(平成21～25年度)、環境省補助金「バイオマス廃棄物を利用した希少元素含有スクラップからのレアメタルの回収および適正処理技術の開発」などのプロジェクト研究を推進しています。

社会貢献的研究として、概算要求事項の特別経費「宮崎県独自の周産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進」(平成21～25年度)、「スポーツ外傷、傷害の病態解明」(平成19～23年度)が採択され、宮崎県が我が国で最も低い周産期死亡率を達成・維持して、全国のモデルシステムとして注目されていることに貢献し、プロスポーツキャンプのメッカである宮崎県のスポーツメディカルサポートシステムの構築に寄与しています。さらに、平成22年度に地域医療再生計画に基づく寄附講座「地域医療学講座」を設置し、地域医療に特化した教育・研究を行い、宮崎県の課題である地域医療に貢献する仕組みができました。

国際連携研究として、JICA草の根事業による「インドUP州における地下水砒素汚染の総合的対策」は平成22年5月で終了しますが、次期事業として、「行政主導化を目指したインドUP州における砒素汚染対策実施事業」の採択が内定し、年度内にスタートする予定です。また、産学連携センターに設置されていた寄附研究部門「アジア地下水砒素汚染対策部門」は平成21年度で終了しましたが、平成22年度から、国際連携センターに地盤環境保全コンソーシアムによる寄附講座「地盤環境保全研究部門」が新たに設置され、国際貢献を推進する仕組みができました。いずれも国内外で高い評価を受けており、今後ますますの発展が期待されます。

宮崎大学の研究戦略

研究戦略の目標

本学は、「人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展」、「深奥なる学理の探求」、「生命を育ててきた地球環境の保全」、「人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学の創造を志向し、変動する多様な社会の要請に応え得る人材の育成」を基本理念とし、「世界を視野に 地域から始めよう」というスローガンのもと、基礎的・基盤的研究、萌芽的研究の推進を継続的に図りながら、地域や国際社会が抱える諸問題を解決するために以下の3つの研究目標と重点領域を定め、研究を推進する。

〈研究目標〉

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

〈重点領域〉

- ◎生体制御・防御機構と環境－生理活用物質と機能性食品の探索－
- ◎バイオマス資源の生産・有効利用による環境改善・修復に関する研究と技術開発
- ◎再生可能エネルギー変換・貯蔵技術および低環境負荷型生活様式に関する研究

宮崎大学の大型研究プロジェクト (平成22年度現在 予算総額1,000万以上のもの)

研究課題名等	研究種目	研究期間	学部等
若手研究者支援 ・宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル	文部科学省科学技術振興調整費(若手研究者の自立的な研究環境整備促進)	2009-2013	全部局
女性研究者支援 ・逆風を順風に 宮崎大学女性研究者支援モデル	文部科学省科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)	2008-2010	全部局
生理活性物質の探索 ・新規ペプチドを用いた畜産・獣医領域におけるトランスレーショナルリサーチ ・動物の摂食・代謝・運動に関わる恒常性調節機構と調節物質	日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構イノベーション創出基礎的研究推進事業	2007-2011 2008-2012	農 農、FSRC
臨床開発研究 ・宮崎県独自の同産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進 ・スポーツ外傷、傷害の病態解明－スポーツメディカルサポートシステムの構築－ ・慢性呼吸不全に対するグレリンの臨床応用研究 ・アドレノメデュリン(AM)の炎症性腸疾患治療薬としての臨床応用 ・尿中ナノベジクルを利用した新規非侵襲的腎臓病迅速診断法の開発研究 ・発症危険度判別によるATL発症リスク診断システムの開発	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実) 文部科学省特別経費(地域貢献機能の充実) 厚生労働省科学研究費補助金 厚生労働省科学研究費補助金 JST 地域イノベーション創出総合支援事業(育成研究) JST 重点地域研究開発推進プログラム(研究開発資源活用型)	2009-2013 2007-2011 2008-2010 2009-2011 2009-2011 2009-2011	医、FSRC 医、工、教 医 医 農 医
医学獣医学融合研究 ・医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト－動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾患に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成－	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実)	2010-2014	医学獣医学 総合研究科、 医、農、FSRC
生物遺伝資源 ・ナショナルバイオリソースプロジェクト(ミヤコグサ・ダイズ遺伝資源の収集・保存・提供) ・最先端クルマエビ養殖技術の構築－安全・安心・健康なエビを作る－ ・家庭用果樹苗生産にも対応したカキわい性木挿し木育苗成技術の開発	文部科学省研究開発施設共用等促進費補助金 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系産業技術研究支援センター 生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業 農林水産省[平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業]	2007-2011 2006-2010 2009-2011	FSRC 農、工 農
バイオマス/資源再利用 ・高機能触媒反応によるバイオマス資源のバイオ燃料及びバイオ有価物への変換プロセスの開発 ・農林畜産廃棄物利用による地域資源循環システムの構築 ・健康・安全な長寿社会を支援する水産資源活用技術の創出 ・西南暖地の果菜類における農業に有用な生物多様性の管理技術の確立 ・バイオマス廃棄物を利用した希少元素含有スクリューからのレアメタルの回収および適正処理技術の開発 ・集光動作特性解析シュミレーターの開発 ・豚ふん推肥の炭化による低コストなリン・カリウム回収技術と環境保全型農業資材の開発 ・超小型水力エネルギー回収装置を用いた農業及び水産施設等の省エネルギー化現場実証実験	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実) 文部科学省特別経費(地域貢献機能の充実) 文部科学省地域科学技術振興事業 農林水産省[平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業] 環境省[平成21年度循環社会形成推進科学研究費補助金] NEDO 新エネルギー技術開発 農林水産省[平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業] 農林水産省[平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業]	2009-2013 2006-2010 2008-2010 2009-2011 2009-2011 2008-2011 2010-2012 2010-2011	農、工、農学総合研究 農、工 医、農、工 農 工 工 工 農、工
地域環境評価 ・シンチレーション法を利用した地目混在農地の熱環境評価に関する研究	文部科学省科学研究費補助金若手研究(A)	2010-2012	農
国際連携 ・インドUP州における地下水砒素汚染の総合的対策 ・地盤環境保全研究部門	JICA 草の根技術協力事業 アジア地下水砒素汚染対策寄付研究部門 寄附講座(地盤環境保全コンソーシアム)	2007-2010 2010-2012	工、医 国際連携センター

※FSRC・・・フロンティア科学実験総合センター

教育文化学部

(入学定員230人)

教育文化学部では、日本の将来を担う子どもたちを教育する教員を養成し、また、日本・アジア・欧米の言語や文化、法律・政治・経済・福祉などの社会のシステムに関する教育と研究を行っています。したがって、各課程の教育を受けるにふさわしい基礎学力を備えるとともに、向学心、職業意識、社会への関心の高い人を受け入れることを目指して、多様な入学者選抜を行います。

● 学校教育課程 (入学定員150人)

- 初等教育コース 75人
- 中学校教育コース 60人
- 特別支援教育コース 15人

学校教育課程は、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題について、また学校で何をどのように教えるか等について、専門的に学びます。とくに、今日の多様化した子どもたちに愛情と情熱をもって接し、子どもの個性をより良い方向に伸ばすことのできる、柔軟な思考と豊かな感性、そして広い教養を備えた質の高い教員の養成を目指しています。

そのため本課程は、子どもの発達段階を見通した広い視野から、初等教育(11専攻)、中学校教育(10専攻)、特別支援教育の3コースに分かれて、それぞれを重点的に学べるようにカリキュラムが組まれています。

専攻やコース独自の科目とともに、一般に小学校や中学校、特別支援学校等の教員になるために必要な科目、つまり教職科目を学習します。教職科目には介護等体験実習、教育実習が含まれています。



● 人間社会課程 (入学定員80人)

- 言語文化コース 15人
- 社会システムコース 65人

現在の社会は、グローバル化と情報化の進展という大きな変動の中にあります。人間社会課程は人文科学、社会科学の諸分野の学習を通して、堅実な学問的基礎力をつけながら、人間・社会・文化についての幅広い教養と国際的視野を持ち、併せて現代社会の抱える諸課題に対する実践的解決能力を持った人材の養成を目指します。そのために本課程では、「欧米思想」(哲学、思想の認識を深める科目)、「国際関係論」(現実世界の国際関係を考察)、「実践的地域マネジメント論」(社会の現場で具体的に取組まれている諸課題を実践者から直接学ぶ科目)の3科目を課程の必修科目に設定しています。その上で言語や文化という人文科学を中心に学ぶ言語文化コースと、社会科学分野を中心に社会を対象とする学問分野を学ぶ社会システムコースの2つのコースに分かれて学習し、それぞれの専門性を深めます。



● 附属教育実践総合センター

「教育実践研究教育部門」では「学ぶ力」「生きる力」を高めるための学習カリキュラム及び指導法の開発、「教育情報科学研究部門」ではIT時代の到来を踏まえ、大きく変化する新しい時代の学習・教育環境の構築、「教育臨床研究教育部門」では学校不適応等、子どもが抱える様々な問題に対応できる力量をもった学生、現職教員の養成に努めています。





「知」を磨き、「学」を伝える。知識豊かな人材を育てる。

● 附属学校

附属幼稚園

昭和42年に開設されました。広々とした園庭には、数十年を経過した銀杏や楠等が大きな枝を広げ、四季折々の豊かな自然環境を日々の保育に生かしています。「生き生きと活動できる子どもを育てる」を教育目標とし、子どもの自発的な活動を重視しながら、人とのかかわりを大切にされた保育に努めています。



附属小学校

明治26年4月、宮崎県尋常師範学校附属小学校として設立されました。「まなびいっぱい、ともだちいっぱい、あせいっぱい」を学校目標に掲げ、何事にも真剣勝負で取り組んでいます。子供一人一人の個性を大事にしながら、社会の変化に自ら対応できる豊かな心をもった子どもを育成します。



附属中学校

昭和22年、宮崎師範学校の附属中学校として開設された伝統のある学校です。「気品を保ち、社会の変化に主体的に対応できる個性豊かな生徒の育成」を学校の目標とし、「①自発的に学び、真理を探究しよう ②勤労を愛し、お互いに協力しよう ③気品を保ち、健康を増進しよう」を細目として掲げ、活力ある学校づくりを進めています。



医学部

〈入学定員170人〉

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成15年10月に宮崎大学と統合し、宮崎大学医学部となりました。

医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。

●医学科(入学定員110人)

医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師の育成を目指しています。本学科の卒業生は、臨床医師、医学研究者、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。

●求める人材

患者の痛みや苦しみに共感できる豊かな人間性を有している人

協調性・コミュニケーション能力を持っている人

医療人になろうという目的意識を持ち、医学を学ぶために必要な幅広い基礎学力と応用能力を有している人

自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力を持っている人



●看護学科(入学定員60人)

看護学科は、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。本学科の卒業生は、豊かな人間性を有した看護師、保健師、または助産師として、人々の健康と生活への援助を実践し、看護の質の向上と看護学の発展並びに社会の福祉に貢献しています。

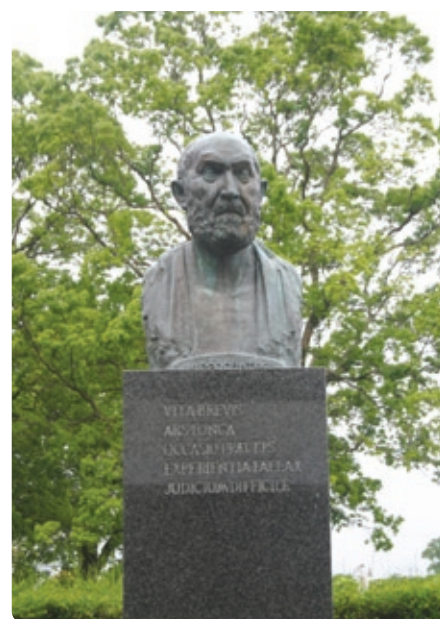
●求める人材

生活している人々の身体的・精神的健康に関心が持てる人

人の気持ちに共感でき、コミュニケーションがとれる人

看護職者になろうという目的意識を持ち、看護学を学ぶために必要な基礎学力を有している人

自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力を持っている人





～地域から世界へ～人間性豊かな医療人の育成。

● 医学部附属病院

宮崎大学医学部附属病院は、昭和52年に開設された地上7階の建物に、総病床数612を有する宮崎県における中核的医療機関です。

診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続くレジデント・医員としての診療や研究並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。

平成6年に特定機能病院の指定を受け、高度医療に関する研修を実施する能力・人員配置及び構造設備等を有し、高度医療技術の開発や評価も行っています。

平成20年には日本医療機能評価機構による「病院機能評価ver5.0」の認定を受け、最新の高度な医療を安全に提供しています。

また、患者さん本位の医療を達成することを目的に、各診療科及び各中央診療部門に、最新の医療機器と優秀なスタッフをそろえ、医療内容の高度化、多様化に加え、時と共に変わる疾病構造の変化にも適切に対応できる体制を整え、地域に貢献できる、より良い病院を目指しています。

さらに、平成18年11月からは、附属病院再整備に着手し平成19年12月に中央診療棟が竣工、平成22年2月に新外来診療棟が竣工し、5月から新外来診療棟での診療を開始しています。また、平成19年12月、市内中心部に「宮崎大学医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニック」を開業し、平成20年2月には「都道府県がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。さらに、同年4月には宮崎県総合周産期母子医療センターを設置、平成21年12月にはICUを16

床に増床するなど、一層の病院機能の向上を目指しています。

● 理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

● 基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備



工学部

(入学定員370人)

工学部は、宮崎県唯一の工学部として、"宮崎に根ざし、世界に目を向けた工学部"を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成につとめ、国際的にも評価される質の高い学術研究活動を進めています。さらに、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。本学部では6学科の連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指しています。

●材料物理工学科(入学定員49人)

現代社会の急速な発展を支えているのは、現代物理学を基盤とした高度な科学技術です。本学科では、このような先端技術を支える物理的知識を基礎から理解し、社会の各方面で活躍できる人材や、新しい先端技術を切り開くことができる人材の育成を目指しています。

●物質環境化学科(入学定員68人)

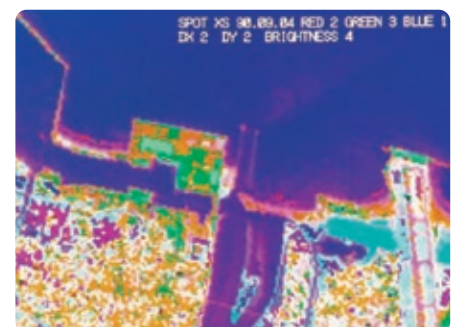
環境、エネルギー、資源、食料など21世紀に人類が直面する地球規模の諸問題を解決するため、化学物質が持つ無限の可能性を開拓すると同時に、その開発や利用において実用性だけでなく自然界や生体への影響、省エネルギーやリサイクルといった地球環境との調和を重視した物質の生産および環境保全の化学を研究しています。本学科では、JABEEの認定を受けた技術者教育プログラムに基づき、地球環境問題に対する「物質環境化学」の役割と使命を教育し、地球環境や生態系に調和した新素材の開発や物質の利用及び循環・再生技術などに係わる化学の基礎知識と応用能力を有する創造性豊かな人材の育成を目指しています。


●電気電子工学科(入学定員88人)

急速に進みつつある高度最先端技術における先駆者の養成をめざして教育・研究を行っています。このため基礎から実用性の高い応用科目までをバランスよく配置したカリキュラムとなっています。基礎科目として、数学・物理学・電磁気学・電気回路などの知識を正しく理解した上で、電子デバイス、電子回路、コンピュータアーキテクチャ、制御、レーザー、プラズマなどの専門科目を勉強し、新しい機能素子、超高密度集積回路、コンピュータシステム、制御システム、新しいエネルギーの発生や輸送についての研究へと発展させていきます。

●土木環境工学科(入学定員58人)

本学科は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤の充実に貢献できる高度技術者(Active, Responsible, Creative and Humane Engineer)の育成を目指しています。このため、平成16年にJABEE認定された教育プログラムに基づき、技術者としての能力および土木環境分野における基礎能力を養成する教育研究を実施しています。

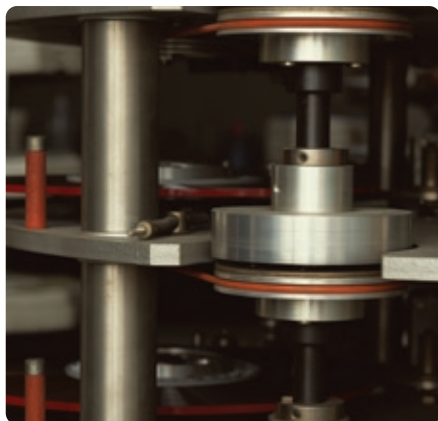




次世代技術・産業への貢献。

● **機械システム工学科**(入学定員49人)

21世紀の工業技術者には、専門知識を身につけるだけでなく、技術者としての倫理観や地球環境問題の理解など多面的な能力が要求されています。本学科は、宮崎における自然環境の恵の中で「人にやさしく」かつ「自然と調和できる」機械を生み出す素養をもった創造性豊かな技術者の育成を目的としています。そこで、人との共存を考えた機械を作るための設計に関する知識、並びに自然と調和できる機械を作るためのエネルギー問題を考える知識を身につける教育に重点をおいています。



● **情報システム工学科**(入学定員58人)

現在の情報技術の進歩には目覚ましいものがあり、産業界や経済界の急速な発展を支えています。本学科では、このような急速に進展しつつある情報化社会の各方面で幅広く活躍できる人材を育成することを教育目標とし、情報工学の高度な専門知識と現実社会での問題解決能力とを兼ね備えた人材の育成を目指しています。



農学部

〈入学定員265人〉

宮崎大学農学部は、宮崎県の農業、日本の農業そして世界の農業を通して、食料問題や環境問題を克服することを使命とし、「食料・環境・生命」をキーワードとして、国内外の農学専門分野で活躍できる人材の育成を行ってきました。しかし、平成12年の改組以来、日本の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、いままでの体制では、社会の多様な要請に応え得る人材の育成や、地域への貢献、地球温暖化などの新たな環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な問題に対応しにくい状況になってきました。そこで、平成22年4月から以下のような新しい学科編成の下で教育と研究を進め、より一層の社会貢献を目指すこととなりました。

●植物生産環境科学科 (入学定員50人)

本学科は、地球の生態系・自然環境と農業生産との調和を図るための環境保全型農業に関する教育と研究を推進しています。また、安全で高品質な農産物を効率よく生産するための基礎知識や栽培技術を身に付けるためのカリキュラムと、植物生産と生産環境に関連した専門知識を国際的視野から深く学ぶためのカリキュラムを提供し、地域・世界の農業に貢献できる人材の養成を目指しています。

●森林緑地環境科学科 (入学定員50人)

私たちの身近に存在する森林・緑地は、人類がこの地球上で生存し続けるために必要な資源を生産する場であるとともに、快適で安全な生活を過ごすための環境を守るうえで欠くことのできない存在です。本学科では、森林や農山村・都市・海岸域を含めた緑地の機能を探求し、持続的な農林業と豊かな自然環境・安全で快適な生活環境との調和を目指した教育研究を行います。

●応用生物科学科 (入学定員55人)

バイオサイエンス分野の最先端技術を用いた生物の機能解明と活用、食品の機能と利用法および安全性について探求しています。我々の研究対象は動物、植物、微生物、これらを活用した食品ならびにそれらを育む土壌・生態系にまで及び、最先端のバイオテクノロジーを駆使した研究を通じて、生命・食料・環境に関する幅広い知識を学ぶことができます。なお、本学科の教育カリキュラムは日本技術者認定機構(JABEE)より認定を受けています。



日本・世界の食料・環境問題の克服を目指して。

● 海洋生物環境学科 (入学定員30人)

宇宙の中で地球を他の惑星から分けた出来事は海の誕生でした。海洋は地球環境の恒常性を担い、生物・非生物の未利用資源に満ちています。海洋を含む水圏環境について深く学び、その生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域ばかりなく、国際社会に貢献できる人材育成を目指します。

● 畜産草地科学科 (入学定員50人)

低コスト・低労力化のもとで、土・植物・家畜の物質循環系を活かして、限られた自給飼料資源をリサイクルさせながら、良質で安全な畜産物の生産に寄与できうる人材を育成するため、南九州地域の温暖な気候に適している肉用家畜の生産と、飼料生産に必要な暖地型植物の生産などを主眼とした、家畜とその生産を支える草地の両面からの教育を行います。



21世紀の地域と世界に向けて、家畜と草の両方の視点から考えることのできる人材を育てることを目指しています。

● 獣医学科 (入学定員30人)

獣医師国家試験に対応する獣医学教育を基本として、動物の疾患の予防・治療に関わる獣医師、動物と人の共通感染症の防御など人や動物の健康・福祉に貢献する獣医師を養成します。なかでも、南九州の特色である産業動物獣医師の養成に力を入れています。また、平成22年度にはわが国で初めて医学と獣医学が融合した大学院(医学獣医学総合研究科)が設置され、先進的な獣医療を実践する高度獣医師育成コースならびに国際的に活躍できる研究者育成コースへの進学が可能です。



■ 附属自然共生フィールド科学教育研究センター

平成13年に、自然共生を目標に総合的な農学教育・研究を行うため、自然共生フィールド科学教育研究センターが発足しました。そこには、共生システム農学、食総合科学、環境科学の3部門があり、木花フィールド(農場)、田野フィールド(演習林)、住吉フィールド(牧場)及び延岡フィールド(水産実験所)の4付帯施設が、フィールドセンターの教育・研究を支えています。

■ 附属動物病院

犬や猫などの病気の動物が大学周辺のみならず県外からも診察を受けに訪れ、地域動物医療の中心となっています。また、畜産地帯に位置するため、和牛などの産業動物医療にも力を入れ、地域の診療獣医師の相談・研修の施設としての役割も担っています。

■ 附属農業博物館

農業をテーマにした博物館は、全国でも珍しく、国立大学法人の中では唯一のものです。館内には、農業、林業、畜産業、水産業などに関わる貴重な標本(動物・植物・土壌など)や、大学の最新の研究成果をわかりやすく紹介した展示があります。

■ 畜産別科

高等学校卒業またはそれ以上の学力のある者が、農学部附属する牧場(住吉フィールド)に周年宿泊して1年間修業する課程で、広く畜産業における後継者や技術指導者を養成します。本別科の所定の単位を取得した者には、家畜人工授精師の資格が与えられます。

大学院

教育学研究科

【修士課程・専門職学位課程】
〈入学定員38人〉

平成20年4月、教育学研究科は、教職実践開発専攻(教職大学院:専門職学位課程)と学校教育支援専攻(修士課程)の2専攻に改組しました。

■学校教育支援専攻

(修士課程)〈入学定員10人〉

■教育臨床心理専修

教育心理、特別支援教育、臨床心理の3コースがあり、それぞれ、①教育心理学的観点から、児童生徒の「心の教育」、「心の健康」の向上に資する教師、②障がいのある児童生徒の教育に関する専門家としての教師、③心の問題を抱える人々に対して、臨床心理学の理論に基づいて心理面接や心理査定などを行うための専門的な知識と技術を身につけた臨床心理士を養成することを目的としています。

■日本語支援教育専修

外国人児童生徒や海外からの帰国児童生

徒に対し、適切な指導助言を含む日本語教育の支援を行う能力を養うとともに、地域社会の外国人の支援や国際理解教育及び国際交流を推進する能力をもつ日本語支援教育専門家を養成することを目的としています。

■教職実践開発専攻

(教職大学院:専門職学位課程)〈入学定員28人〉

学校教育に関する高度の理論、実践力及び応用力を身に付けたスクールリーダーや中堅教員、力量のある新任教員を養成することを目的としています。それぞれの教員として不可欠な高度の資質形成とともに、得意分野の形成のために、学校・学級経営、生徒指導・教育相談、教育課程・学習開発及び教科領域教育実践開発の4コースを設けています。



医 科 学 看 護 学 研 究 科

【修士課程】
〈入学定員25人〉

平成22年4月、医学獣医学総合研究科の設置に伴い、医学系研究科修士課程は、医科学看護学研究科に名称変更しました。

本研究科は「人間の複雑多彩な生命現象を形態学的、生理学的並びに生化学的に研究し、自然環境、社会環境をも研究対象として社会に貢献できる高い研究能力を持つ研究者を育成すること」を使命としています。

社会のニーズに対応するため、秋期入学制度、夜間履修制度、長期履修制度、短縮修了制度、ティーチング・アシスタント制度、リサーチ・アシスタント制度等を取り入れた教育・研究を行っています。

平成21年度には、修士課程看護学専攻に専門看護コース(がん専門看護)を設け、専門看護師(CNS)を養成します。

■医科学専攻(入学定員15人)

他の学問分野の学部卒業生を幅広く迎え入れ、広い視野に立って精深な学識を修得し、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とし、医学の発展と社会の福祉の向上に寄与する人材の育成を使命としています。

●求める人材

医学の基本的知識や研究手法を修得することで、これまでに培った専門分野での研究・技術開発に新たな視点から取り組むことを志す人。

他の学問分野の専門知識・技術を基盤として、新たな視点で医学・医療、福祉分野での問題解決に取り組むことを志す人。

他の学問分野で培った専門知識・技術を基盤として、学際的視点から生命科学研究の発展に寄与することを志す人。

■看護学専攻(入学定員10人)

問題解決能力を有する看護実践者の育成と看護学の教育・研究者の素地育成を目的として、各種の医療機関、保健・福祉施設、行政、教育・研究機関などにおいて、看護実践・指導・研究・教育ができる人材の育成を使命としています。

●求める人材

専門職業人として看護実践の質向上を図るために、より高度な問題解決能力や実践成果の検証方法の探究を志す人。

看護の分野において、専門的知識と学識及び基本的研究能力を培い、看護領域の教育者・研究者を志す人。

他の分野で培った専門知識・技術を基盤として、地域の保健・医療・福祉分野での実践、教育、研究の発展に寄与することを志す人。



大学院

【修士課程】
(入学定員114人)

工学研究科

工学研究科は、平成19年度、農学工学総合研究科博士後期課程の設置に伴い、それまでの「博士後期課程」を発展的に解消し、「博士前期課程」を「修士課程」に改称しました。本研究科は、宮崎地域における高度な工学的学術の教育・研究機関として、高度で専門的な科学技術者を育成するとともに、学術研究活動を推進しています。

これまで、博士後期課程からは平成21年度授与の9名を加え合計111名の博士(工学)を輩出し、修士課程からは2,240名の工学修士を送り出しました。これらの博士や修士の修了者は、21世紀の科学技術の発展を担う高度な科学技術者・研究者として、地域社会はもとより、国際社会へも一層の貢献が期待されています。

■応用物理学専攻(入学定員15人)

本専攻では、ミクロからマクロにわたる物質・エネルギー分野の基礎的研究を通して、多様な分野への応用力をもつ高度技術者の育成を目指し、量子物理、材料開発、計数物理、医学物理に関する教育と研究を行っています。未来の研究・開発の担い手として、自らを高める努力を惜しまないバランスのとれた人材育成を重視しています。

■物質環境化学専攻(入学定員21人)

本専攻では、地球環境や生態系と調和した材料化学、機能化学、物質化学および生物工学の分野に係わる物質環境化学の専門知識と柔軟な応用能力による専門的な研究開発能力を有し、創造性豊かな技術者・研究者の養成を目指しています。

■電気電子工学専攻(入学定員27人)

本専攻では、近年のマイクロエレクトロニクスとそれに伴うコンピュータの発展に伴い、電気電子工学も物理、数学などの基礎科学を取り込みながら進歩拡大しています。そこで、電気電子工学の分野を、電子材料、電子システム及び電気エネルギーの3つに分け、各分野の具体的且つ先進的な研究・教育を行っています。

■土木環境工学専攻(入学定員18人)

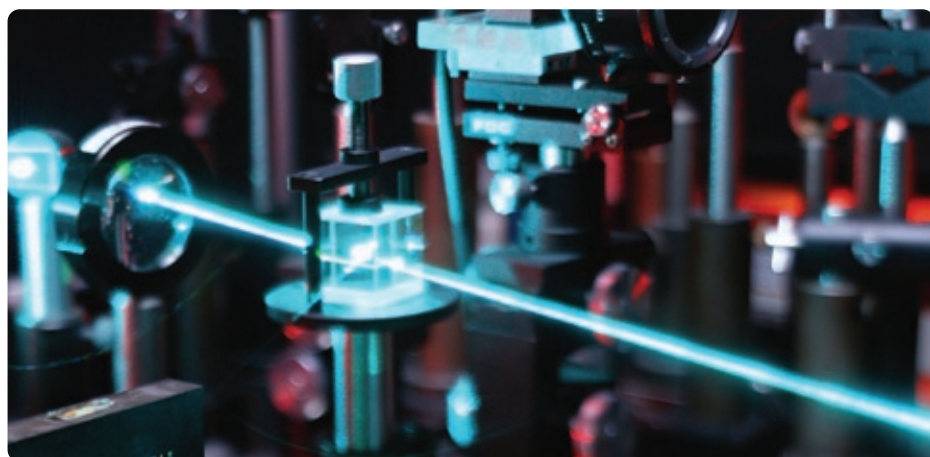
本専攻は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤や生産基盤の充実・改善や、環境保全に貢献できる高度専門技術者の育成を目指しています。このため、建設工学、水環境や廃棄物処理工学、防災、都市計画などの高度な専門知識の修得と研究開発能力の養成に関する教育と研究を実施しています。

■機械システム工学専攻(入学定員15人)

本専攻では工業の基本である機械装置等の設計・開発の基礎とその応用およびエネルギーの有効利用に関する教育と研究を行っています。その主なテーマは、材料強度学を含む材料力学、加工学・トライボロジーを含む設計工学、内燃機関を主とした熱工学、数値解析を含めた流体工学、機械振動解析や計測・制御などです。

■情報システム工学専攻(入学定員18人)

本専攻では、進化型計算、並列処理、情報数値などの情報基礎分野、および知的情報システムや高度制御システムの設計技術あるいはネットワーク技術やソフトウェア工学などの情報応用分野に関するより高度な知識と技術の研究・教育を通じて、情報科学・計算機科学・システム工学を統合した、より深い知識と広い応用能力を合わせ持つ人材の育成を行っています。



農学 研究科

【修士課程】
〈入学定員68人〉

農学研究科では、専門性の高い農業分野の5専攻(生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻)を備え、高度で先端的な科学技術を修得できる大学院教育を行います。すなわち陸域・水域を問わず生物生産、生物資源利用、環境保全などに積極的に取り組み、将来の食と健康を担うべき農学分野での高度専門技術者あるいは研究者の養成を目指しています。また、農林水畜産業の生物生産から生物資源の利活用までの探求を通して、地域社会から国際社会まで幅広く活躍できる人材を育成します。

さらに、生物多様性の保全とその持続的利用に対する社会的関心が高まる中、様々な遺伝資源の研究や応用に必要な専門技術に関する教育を行い、規定のカリキュラムを修得した学生には「遺伝資源キュレーター育成プログラム」の修了認定を行っています。

そこで本研究科では以下のような人を積極的に受け入れます。

1. 農学分野の学部レベルの専門知識を修得し、さらに高度の学究に努めたい人。
2. 他専門分野で学んだ知識を生かして、農学分野で新たに活躍したい人。
3. 社会の経験を有し、さらに農学分野の科学知識を深めたい人。
4. 食料・環境・生命・資源の関連分野において、国際的に活躍したい人。

■生物生産科学専攻(入学定員16人)

本専攻では、植物と動物を対象に「いかに生物生産を行うか」という農学の基本的課題の一つに焦点を当てた専門教育を行います。これからの動植物の生産は単に多収を目的とするだけではなく、生産過程の効率化と環境負荷の低減や生産物の安全性・品質の向上・安定的供給などが社会的に強く望まれています。

このような観点から植物生産および動物生産の両分野の専門教育を深化させ、また、両分野を有機的に連携した新しい生物生産システムを志向する教育研究を行います。

■地域資源管理科学専攻(入学定員12人)

本専攻では、農林業生産の基盤となる水資源や土地資源、機械や施設構造物に関する技術資源、生産・流通を担う人や組織などの人的資源や情報資源などの総合的な管理・運用・評価に必要な知識と技術の修得を目標とした教育・研究を行います。

■森林草地環境科学専攻(入学定員10人)

本専攻は、地球上の陸圏生態系の60%以上を占める森林、草地および乾燥地域における環境科学ならびに生態系、資源管理に関する教育・研究を行います。森林、草地および乾燥地生態系の総合的な管理(生物資源の持続的生産、保全、再生および修復)を目指すフィールド科学と、そこで生産される生物資源の開発ならびに利用方策を探究する生物材料科学とを基本に展開される応用科学を担当します。

■水産科学専攻(入学定員10人)

本専攻は、地球上の70%以上を占める海洋・河川・池沼など水圏に関する生物科学や生態系との調和を前提とした生産技術の教育・研究を担っています。水圏環境の保全、増養殖、魚病対策、未利用資源の開発等に関し

て高度な専門的知識の習得を目指します。延岡フィールドセンターを始めとした野外での教育を重視し宮崎地域における唯一の水産科学分野のシンクタンクとして、環境保全、研究推進、産業振興ならびに後継者育成における中心的役割を果たしています。

■応用生物科学専攻(入学定員20人)

本専攻では、動物、植物、微生物並びにそれらを利用した食品が持つ機能やそれらを育む土壌・生態系が持つ機能を生化学的、遺伝子工学的あるいは食品機能学的に解明するための教育研究を行っています。学部(応用生物科学科)においては、修得した知識をベースとして、本専攻ではさらなる知識と技法を修得します。

●博士後期課程

宮崎大学大学院農学工学総合研究科

農学工学総合研究科は、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。修了者には博士(農学、工学、学術のいずれか)の学位が授与されます。

●博士課程

宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科

獣医学科卒業生については、平成22年4月1日から「宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科(博士課程)」が新たに設置されました。医学獣医学総合研究科は、医学部と獣医学科が連携した大学院で、高度獣医療を実践する臨床獣医師ならびに国際的に活躍できる研究者を目指す高次教育を行います。修了者には、博士(獣医学、医学のいずれか)の学位が授与されます。



大学院

【博士課程】
(入学定員23人)

医学獣医学総合研究科

平成22年4月、教育研究の更なる充実と深化を深めるために、医学系研究科博士課程を改組し、医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻(3コース)が設置されました。

本研究科は、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

①高度臨床医育成コース

「高度臨床医育成コース」は、高い倫理観を有する専門性の高い診断・治療技術に裏打ちされた高度な研究マインドを持った指導的臨床医の育成を目的としています。

このコースは、臨床と研究をバランスよく経験することにより、双方の能力を兼ね備えた高度臨床医を育成するもので、各医学専門学会での専門医認定資格を視野に入れた臨床技術の修得が可能となっています。

②高度獣医師育成コース

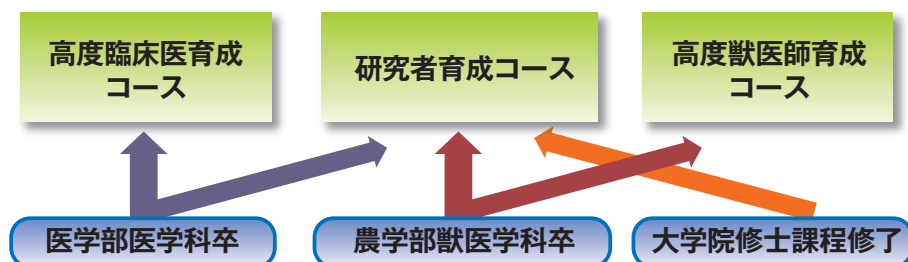
「高度獣医師育成コース」は、獣医診療において、医学の診断・検査法、治療法、手術方式を学び、その手法を履修することで、専門性の高い診断・治療技術を修得し、高度な研究マインドを有する指導的獣医師の育成を目的としています。

このコースは、獣医診療に軸足をおいた他に類を見ない特色あるコースとなっています。

③研究者育成コース

「研究者育成コース」は、国際的に活躍できる医学・獣医学の教育研究を担う人材育成を目的としています。

このコースは、本研究科における大学院教育の中核をなすものであり、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークにより、将来研究者・教育者として自立するために必要な医学・獣医学の両分野にまたがる幅広い専門知識と、研究に必要な実験のデザイン等の研究手法や研究遂行能力の修得が可能となっています。



農学工学総合研究科

【博士後期課程】
〈入学定員16人〉

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。このような人材養成によって、21世紀の喫緊の課題である低環境負荷・持続型生産システムの構築、持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、生物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発、地域バイオマス資源の有用物質への変換、ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生、自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築等の課題解決に貢献します。

●資源環境科学専攻(入学定員4人)

①環境共生科学 ②持続生産科学

資源の枯渇、自然及び生活環境の悪化、食料危機などの人類が直面しつつある課題に取り組むために、資源の有効利用と資源循環による環境負荷の低減を基調とした、安全で活力ある循環型社会の構築に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。



●生物機能応用科学専攻(入学定員4人)

③生命機能科学 ④水域生物科学

動植物、微生物及び水産生物資源が有する諸機能の解明と、それに基づいた知見により、本地域及び国際社会が抱える食料・エネルギー・環境問題に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。



●物質・情報工学専攻(入学定員8人)

⑤新材料エネルギー工学 ⑥生産工学

⑦数理情報工学

環境調和・循環型及び高度情報化社会の課題に取り組むために、環境調和型新材料の構築、エネルギーの変換・解析、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なアルゴリズムとソフトウェアを活用した情報処理技術及び数理モデルの構築に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。



附属図書館

附属図書館(以下、「図書館」という)は、本館(木花キャンパス)と医学分館(清武キャンパス)から構成されており、宮崎大学における教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館の役割は、学術情報の収集・蓄積・提供、学習環境の整備などです。このため、図書館では長年にわたって、蔵書(蔵書数:約63万冊)を蓄積するとともに、近年はインターネットを介しての情報提供体制を整え、図書館資料(図書や雑誌など)が有効に活用される環境(ハード及びソフトの面)を整えています。

このため、図書館では、学生用図書の充実、電子ジャーナル(学内限定でオンラインで利用できる学術雑誌)の整備、宮崎大学学術情報リポジトリ(学内生産の電子的研究成果物の収集・保存・発信)の拡充等に努めています。また図書館を有効に活用していただくため、ホームページの充実や文献検索講習会の開催などを実施しています。

現在、大学は社会との連携が強く求められており、そのため図書館では、地域の方へ図書館を利用していただくことを始め、県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図るよう取り組んでいます。



図書館ホームページ <http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/>

附属図書館

●コレクション

【大正新脩大藏經 全100巻】

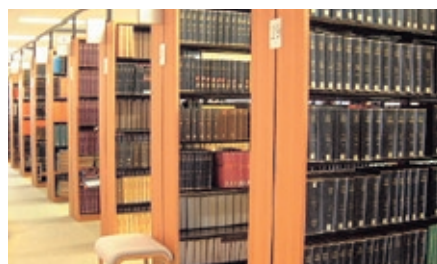
このコレクションは、膨大な数のインド仏典の漢訳を10年以上の歳月をかけて全100巻に編集したものです。梵語写本の多くが失われている現在、仏教研究者にとって漢訳仏典は非常に重要であり、特にこの大藏經はその校正の厳密さゆえに高く評価されています。

【イギリス教育史コレクション 467点】

このコレクションは、16世紀イギリスの人文主義教育思想家アスカムから20世紀に至るイギリスの教育思想(史)、教育史に関するオリジナル文献・研究書を幅広く収めています。

【アレン・ハット旧蔵 世界労働運動史コレクション 996点】

このコレクションは、「イギリス労働運動史」の著者として知られる労働運動史家アレン・ハットが所蔵していた、イギリス並びに英ソ関係を中心とした世界労働運動史の様々な文献から成り立っています。



教育学内共同 教育研究施設

●産学連携センター

産学連携センターは、産学連携・知的財産及び機器分析支援の3部門から構成されています。「産学連携部門」は、地域・産業界からの科学技術相談に対応するとともに、大学シーズと企業ニーズをマッチさせて共同研究への展開を支援しています。「知的財産部門」は、研究成果から生じた知的財産を管理し、特許等の取得や地域・産業界への還元を行っています。「機器分析支援部門」は、高度な分析機器を多数所有しており、各種試験・分析の依頼に応えています。このように、本学の産学連携の窓口として、産業界や地域の振興に貢献しています。



●フロンティア科学実験総合センター

フロンティア科学実験総合センターは、学際的な生命科学研究を行う「生命科学研究部門」と教育・研究活動を支援する「実験支援部門」の2部門で構成されています。

「生命科学研究部門」は、「生理活性物質探索分野」、「生体機能制御分野」、「生命環境科学分野」の3分野で構成され、生理活性ペプチドの探索研究やその機能解明、微生物ゲノムの解析研究等を行っています。

「実験支援部門」は、4つの分野で構成され、「生物資源分野」、「分子形態・機能解析分野」は清武キャンパス、「遺伝資源分野」は木花キャンパス、「RI分野」は両キャンパスにあります。本部門ではミヤコグサなどのナショナルバイオリソースの日本における情報センターの一翼を担っている他、各分野で独創的な研究活動を行うとともに、本学の広範な教育研究活動の支援を行っています。



●教育研究・地域連携センター

教育研究・地域連携センターは大学教育の質の向上および学生の学習環境の充実に資するための調査、研究、企画、提言を行っています。また、公開講座の運営や高等教育コンソーシアム宮崎における大学連携など、大学と地域社会との架け橋として、さまざまな大学開放事業や地域連携事業を推進しています。



●国際連携センター

国際連携センターは、本学の世界への架け橋として、学術研究や教育の国際連携・協力事業の企画立案やサポートを行っています。「国際協力部門」では、学術交流のほか、本学がコンサルタント登録しているJICAと連携して、国際教育協力、保健医療、アジア地下水砒素汚染対策、農業開発などの事業を行っています。「留学生支援部門」では、多言語教育・日本語教育、国際広報、学生交流プログラム、生活指導などの事業を行っています。



安全衛生保健センター 情報化推進組織

●安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートすると共に、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。

日常業務では、急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。

また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っています。

■主な業務内容は以下のとおりです。

1. 定期及び臨時健康診断とその保健指導等
2. 健康相談及び一次救急処置
3. 心の健康保持に必要な精神医療相談
4. 学内の環境衛生等に対する助言・指導
5. 保健管理・労働安全のための調査研究
6. 健康保持増進への予防医学的啓発と学生教育の支援
7. 職場復帰のための復職支援



●情報化推進組織

■情報戦略室

情報戦略室は、本学の情報化推進構想、戦略立案、ポリシー策定などにおいて統率的な役割を果たす組織です。情報運用管理及び情報技術に関する統括組織として、情報施策の立案及び情報関連の各種ポリシーや構想の策定、情報システムの改善や点検評価、セキュリティ対策、情報基盤検討、情報資源の戦略的運用、情報システムの機能的統合などの役割を担います。

■情報支援センター

情報支援センターは、情報戦略室の実務実行組織として教育研究活動及び大学運営等に必須なキャンパス・バックボーン、各種の情報ネットワークシステム、各種情報システムの運用管理サービスを実施します。情報支援センターは、「情報基盤・システム運用部門」、「運営情報部門」、「教育・メディア情報部門」、「研究・学術情報部門」、「評価情報部門」の5つの部門から構成されています。



国際交流

宮崎大学は、国際交流事業として①学術交流、②学生交流、③国際協力、④地域の国際化への貢献の4つの柱を据え、地理的・歴史的な関係から、東アジア・東南アジアの大学等を中心に、活発な交流を展開しています。

国際貢献

●研究者の海外派遣・受入れ

文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構(JICA)及び各種機関の助成等により、年間約350名の研究者が海外に派遣されており、外国人研究者も積極的に受け入れています。

●国際協力

本学ではJICAやNGO等と連携しながら、アジアやアフリカ、中南米等の開発途上国に対して積極的な国際協力を展開しています。

●国際交流協定

全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、34の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、23大学とは学生交流覚書(授業料等相互不徴収)を締結し、活発な学生交流を図っています。

●留学生の受入れ

17カ国から国費・私費・政府派遣の留学生約100名を受け入れ、教育研究を行うと共に、生活支援、学内での交流事業等を実施し、諸外国の指導的人材の育成に努めています。

●学生の海外派遣

宮崎大学では、学生交流覚書を締結している大学に、学生を派遣しています。協定

による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。また、留学先で取得した単位を宮崎大学の単位とすることができます。

●短期学生交流の実施

宮崎大学では、海外の協定校と短期学生交流を実施しています。学生が相互訪問し、ホームステイ等を通じ、お互いの文化を学び、交流を深めています。また、教養科目「異文化交流体験学習」の単位が認められています。

●海外オフィス

宮崎大学は、インドネシア・マラン市とインド・ウッタールプラデシュ州バライチ県に海外拠点を設置しています。

インドネシアでは、本学工学部の協定校であるブラウィジャヤ大学内にオフィスを設置し、本学とブラウィジャヤ大学との学術交流・学生交流を支援しています。

●地域社会の国際化への貢献

本学の外国人留学生は、県内の小中学校における各種国際交流事業や、国際交流団体が開催する国際理解事業等に参加し、地域社会の国際化へ貢献しています。

■主な学生交流覚書締結校

国名等	大学名	募集学部等	派遣学生
中国	南京農業大学	全学部	2名以内
中国	上海交通大学	全学部	1名以内
韓国	順天大学校	全学部	3名以内
中国(台湾)	東呉大学外国語文學院	教育文化学部	2名以内
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学	教育文化学部	2名以内
ニュージーランド	オタゴ大学教育学部	教育文化学部	2名以内
インドネシア	ブラウィジャヤ大学工学部	工学部	2名以内
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	医学部	4名以内
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	農学部	2名以内

※その他派遣が可能な大学:青海大学・中国農業大学(中国)、国立政治大学(中国(台湾))、カセサート大学(タイ)、ポゴール農科大学・ハサヌティン大学(インドネシア)、嶺南大学校・全北大学校(韓国)、ハノイ農業大学(ベトナム)、フィリピン大学ロス・バニョス校・セントラルソン国立大学(フィリピン)、モンゴル国立農業大学(モンゴル)、フェノスアイレス大学農学部(アルゼンチン)、リュブリアナ大学(スロベニア)



地域貢献

●公開講座等の大学開放事業

宮崎大学では、公開講座、自治体等との連携による指導者養成事業、全国からの受講者が集まる「シニアカレッジ」など、大学開放事業の充実を図っています。さらに、地域連携および学生の実践的な教育の観点から、「卒業研究テーマ」を一般に公募し、寄せられた研究テーマについて本学の学生が研究し発表するプログラムも実施しています。



●遠隔教育、情報提供の推進

宮崎大学では、宮崎健康福祉ネットワーク(はにわネット)、宮崎情報ハイウェー21(MJH21)等を活用した遠隔医療、遠隔教育等を実施しているほか、学内にインターネット放送局(MyaoH.TV)を開設し、地域への情報発信を積極的に行っています。

このほか、宮崎科学技術館に「宮崎大学展示コーナー」を設置し、本学の最先端の教育・研究の成果を広く県民に発信しています。

置(技術、教育、健康など)、他大学等と連携した各種コンソーシアム事業等を展開しています。



●高等教育コンソーシアム宮崎

宮崎大学は、県内11の高等教育機関が連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」の基幹大学として、単位互換、インターカレッジセミナー、合同進学説明会、インターシップ事業などを行っています。

●中学・高校等との連携事業

宮崎大学では、中学・高校等との連携を一層強化するため、出前講義、体験授業、公開授業などを継続的に実施しています。また、小・中・高教員の研修も含めた新しい「科学夢ロマン」事業を、宮崎県教育委員会との連携により取り組んでいます。

●宮崎大学サテライト・オフィス(移設中)

地域社会への情報発信の場として、また地域の人々と交流しニーズを捉えるアンテナとして、さらには他の教育研究機関との交流・連携や産官学交流・連携の場として機能することを目的に、サテライト・オフィスを宮崎市の中心地(宮崎市橘通3-3-24)に設置(但し現在移設中、平成22年8月オープン予定)しています。

●地域住民に対する施設等の開放

宮崎大学では、附属図書館の日曜開館及び体育施設の開放を開始し、ホームページからも利用案内や予定表などが閲覧できるようになっています。今後は、地域住民の利用促進を図り、引き続き、施設等の開放を積極的に進めていきます。

サテライト・オフィスには、パソコン等を備え、スタッフが窓口での対応にあたる他、教育・研究成果の公開・発表、入学案内や各種催し物の案内、公開講座、各種相談窓口の設

アクセス

宮崎までの交通アクセス

■航空機

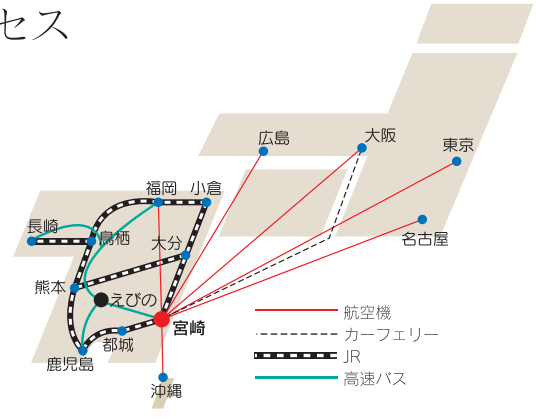
東京	—	宮崎	(105分)
名古屋	—	宮崎	(80分)
大阪	—	宮崎	(70分)
広島	—	宮崎	(60分)
福岡	—	宮崎	(40分)
沖縄	—	宮崎	(80分)

■カーフェリー

大阪	—	宮崎	(12時間20分)
----	---	----	-----------

■高速バス

福岡	—	宮崎	(4時間)
熊本	—	宮崎	(3時間)
鹿児島	—	宮崎	(2時間30分)
長崎	—	宮崎	(5時間20分)



■JR(特急)

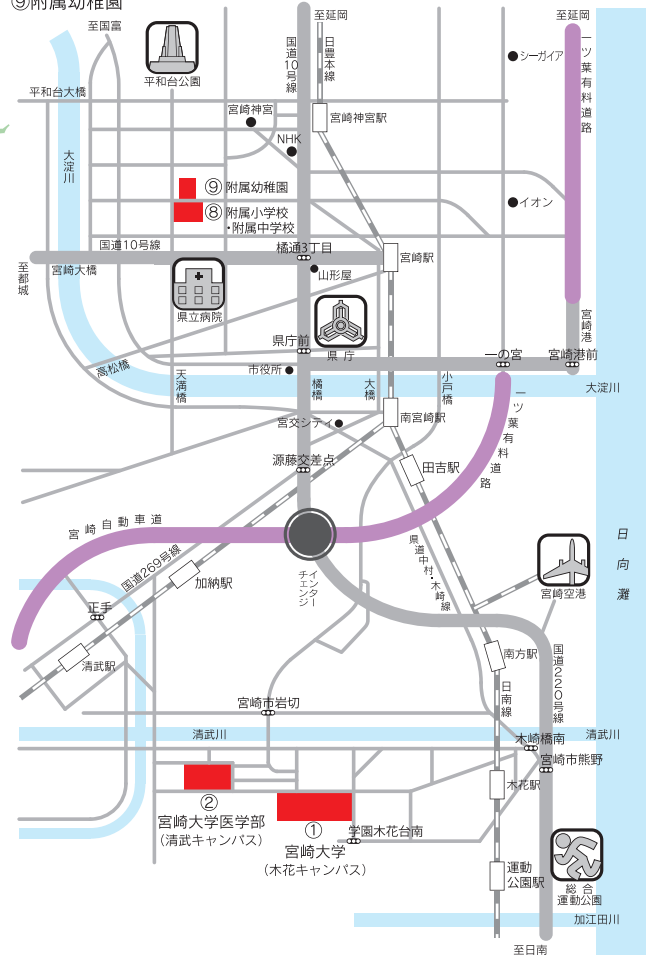
博多	—	宮崎	(5時間10分)
小倉	—	宮崎	(4時間30分)
熊本	—	宮崎	(3時間40分)
大分	—	宮崎	(3時間)
鹿児島中央	—	宮崎	(2時間10分)

宮崎大学までの交通機関

(JR南宮崎駅近く)	宮交バス	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約25分
宮交シティバスセンター	宮交バス	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約15分
JR清武駅 (徒歩2分)JR清武駅前バス停 (徒歩5分)清武役場前バス停	タクシー	宮崎大学まで	約8km → 約15分
宮崎空港	宮交バス	「宮交シティ行」	約30分 → 「宮崎大学・大学病院行」に乗車 → 約25分
宮崎港	宮交バス	清武インターから	→ 約10分

施設位置図

- ①宮崎大学(木花キャンパス)
- ②宮崎大学医学部(清武キャンパス)
- ③住吉フィールド(牧場)
- ④田野フィールド(演習林)
- ⑤(大納地区)
- ⑥(崎田地区)
- ⑦延岡フィールド(水産実験所)
- ⑧附属小学校・附属中学校
- ⑨附属幼稚園



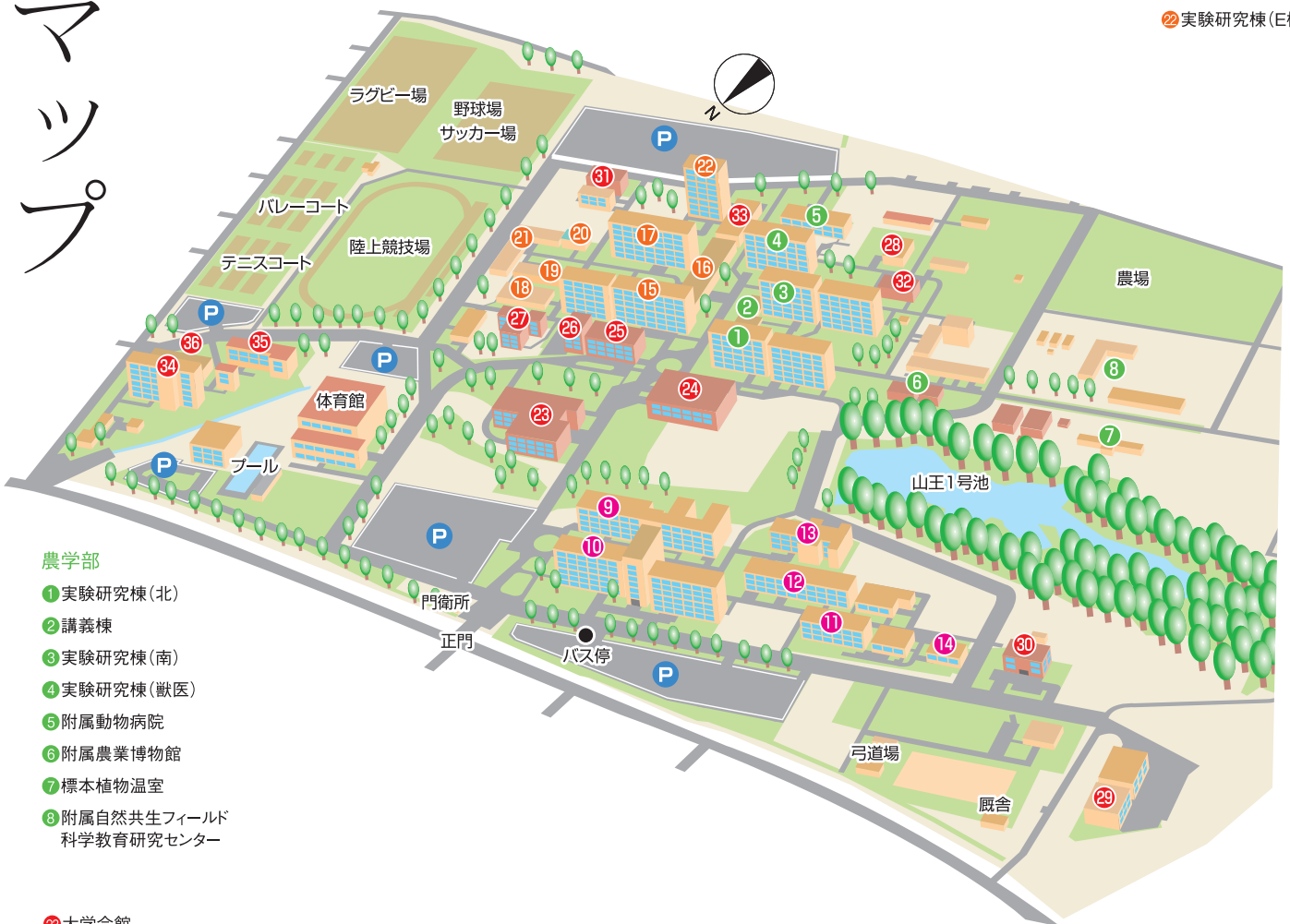
木花キャンパス Kibana Campus

教育文化学部

- 9 講義棟
- 10 実験研究棟
- 11 美術棟
- 12 技術・家庭棟
- 13 音楽棟
- 14 附属教育実践総合センター

工学部

- 15 実験研究棟(A棟)
- 16 講義棟(B棟)
- 17 実験研究棟(C棟)
- 18 機械実習工場
- 19 機械工学実験実習棟
- 20 高電圧実験棟
- 21 土木工学実験実習棟
- 22 実験研究棟(E棟)



農学部

- 1 実験研究棟(北)
- 2 講義棟
- 3 実験研究棟(南)
- 4 実験研究棟(獣医)
- 5 附属動物病院
- 6 附属農業博物館
- 7 標本植物温室
- 8 附属自然共生フィールド
科学教育研究センター

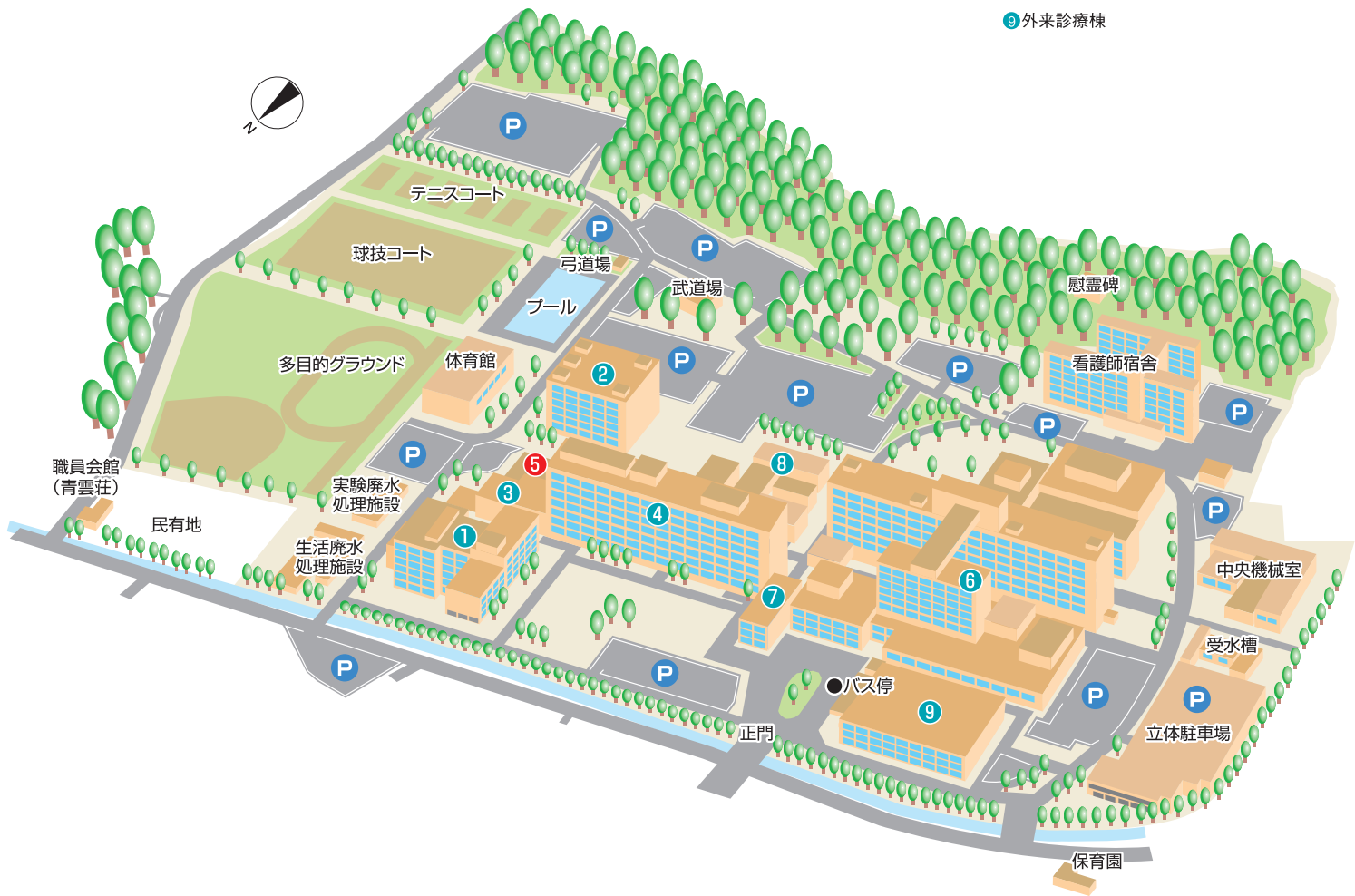
- 23 学生会館
- 24 附属図書館(国際連携センター)
- 25 事務局棟
- 26 安全衛生保健センター
- 27 情報戦略室・情報支援センター
- 28 フロンティア科学実験総合センター(RI木花分室)
- 29 産学連携センター(産学連携施設)
- 30 教育研究・地域連携センター
- 31 産学連携センター(機器分析支援施設)
- 32 フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)
- 33 総合研究棟
- 34 国際交流会館
- 35 女子寄宿舍
- 36 男子寄宿舍

Kibana Campus

清武キャンパス Kiyotake Campus

医学部

- ① 講義実習棟
- ② 総合教育研究棟
- ③ 福利施設棟
- ④ 基礎臨床研究棟
- ⑤ 附属図書館医学分館
- ⑥ 附属病院
- ⑦ 管理棟
- ⑧ フロンティア科学実験総合センター
- ⑨ 外来診療棟



※現在、清武キャンパスは病院再整備に伴う工事を行っており、
 実際の状況とは若干異なる場合がございます。

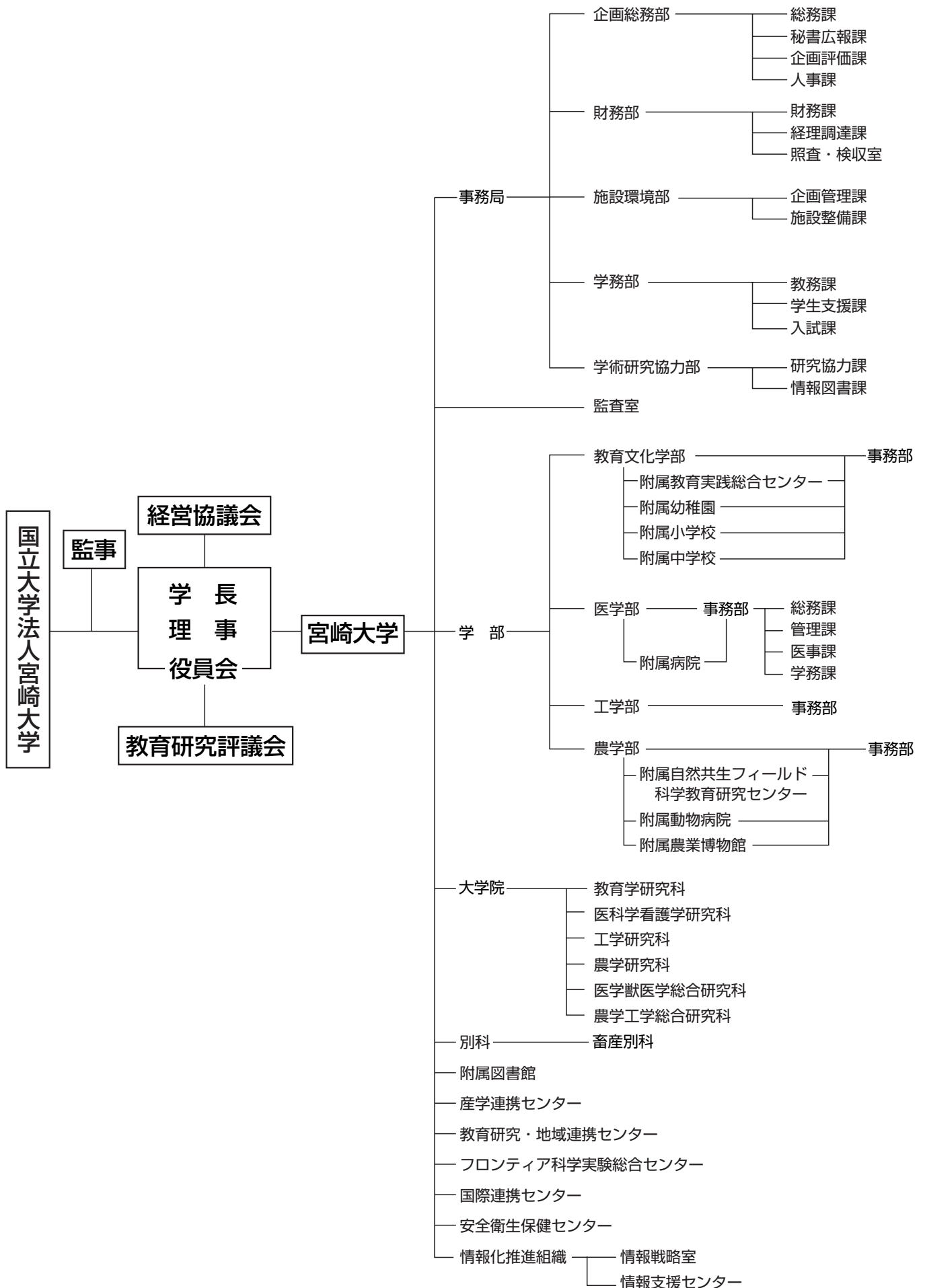
Kiyotake Campus

宮崎大学概要 [資料編]

目次 (資料編)

機構図	32
役職員	33
職員数	34
歴代学長	34
沿革	35
学部・大学院等	39
附属図書館	40
附属病院	41
学生・生徒・児童及び園児数	42
平成 22 年度入学状況	45
卒業生・修了者数	47
博士の学位授与者数	48
平成 21 年度就職状況	49
奨学生状況	50
国際交流	51
平成 21 年度公開講座実施状況	53
平成 21 年度経理状況	54
学生関係施設	56
土地・建物	57
施設所在地	58

機構図



役員

(平成 22 年 7 月 1 日現在)

役員会委員 : ○印
 経営協議会委員 : ●印
 教育研究評議会評議員 : ○印

学長		菅 沼 龍 夫 ○●○	学生支援課長	榮 留 文 夫
理事	副学長 (研究・企画担当)	中 山 建 男 ○●○	入試課長	中 山 泰
	副学長 (教育・学生担当)	原 田 宏 ○●○	研究協力課長	横 山 寛
	病院長 (病院担当)	池 ノ 上 克 ○●○	情報図書課長	池 田 光 弘
	事務局長 (総務担当)	白 石 薫 二 ○●○	教育文化学部 学部長	兒 玉 修 ○
	法務担当	日 野 直 彦 ◎	附属教育実践総合 センター長	添 田 佳 伸
副学長	(目標・評価担当)	菊 地 正 憲 ○	附属幼稚園長	竹 井 成 美
	(入試担当)	村 岡 嗣 文 ○	附属小学校長	福 原 美 江
	(産学・地域連携担当)	福 田 亘 博 ○	附属中学校長	岩 本 俊 孝
	(国際連携担当)	丸 山 眞 杉 ○	事務長	三 好 学
監事		高 山 幹 男	医学部 学部長	迫 田 隅 男 ○
		木 下 博 義	附属病院長	池 ノ 上 克
経営協議会 学外委員	(社)宮崎県医師会会長	稲 倉 正 孝 ●	事務部長	羽 生 守 彦
	元宮崎県教育委員会教育長	岩 切 正 憲 ●	総務課長	鳥 居 時 政
	前長崎大学長	斎 藤 寛 ●	管理課長	黒 木 謙 治
	(株)宮崎銀行代表取締役会長	佐 藤 勇 夫 ●	医事課長	原 博 文
	川崎重工業(株)相談役	田 崎 雅 元 ●	学務課長	五 十 嵐 三 男
	前九州女子大学学長	山 崎 信 行 ●	工学部 学部長	大 坪 昌 久 ○
教育研究評議会 評議員	教育文化学部 教授	入 谷 貴 夫 ○	事務長	道 鬼 安 男
	医学部教授	浅 田 祐 士 郎 ○	農学部 学部長	川 村 修 ○
	工学部教授	中 澤 隆 雄 ○	附属自然共生フィールド 科学教育研究センター長	福 山 喜 一
	農学部教授	村 上 昇 ○	附属動物病院長	片 本 宏
	共通教育部長	境 幸 夫 ○	附属農業博物館長	六 車 三 治 男
事務局	事務局長	白 石 薫 二	事務長	丸 田 和 廣
	企画総務部長	森 山 都 留 男	教育学研究科 研究科長	宇 田 廣 文 ○
	財務部長	中 村 俊	医科学看護学研究科 研究科長(併)	迫 田 隈 男
	施設環境部長	栗 木 浩	工学研究科 研究科長(併)	大 坪 昌 久
	学務部長	徳 丸 利 秋	農学研究科 研究科長(併)	川 村 修
	学術研究協力部長	水 井 義 武	医学獣医学総合研究科 研究科長(併)	迫 田 隈 男
	監査室長	福 留 孝 司	農学工学総合研究科 研究科長	藪 谷 勤 ○
	総務課長	上 村 茂 樹	附属図書館 館長(併)	原 田 宏
	秘書広報課長	原 義 彦	産学連携 センター	センター長(併) 福 田 亘 博
	企画評価課長	中 原 康 徳	教育研究・地域 連携センター	センター長(併) 原 田 宏
	人事課長	米 澤 宏	フロンティア科学 実験総合センター	センター長 林 哲 也 ○
	財務課長	山 口 豊	国際連携 センター	センター長(併) 丸 山 眞 杉
	経理調達課長	齋 藤 義 弘	安全衛生保健 センター	センター長 寺 井 親 則
	照査・検収室長	中 村 俊	情報戦略室 室長	津 野 和 宣
	事務代理	馬 場 政 秀	情報支援 センター	センター長(併) 中 山 建 男
	企画管理課長	瀨 戸 口 俊 幸		
	施設整備課長	宮 崎 逸 男		
	教務課長			

職員数

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

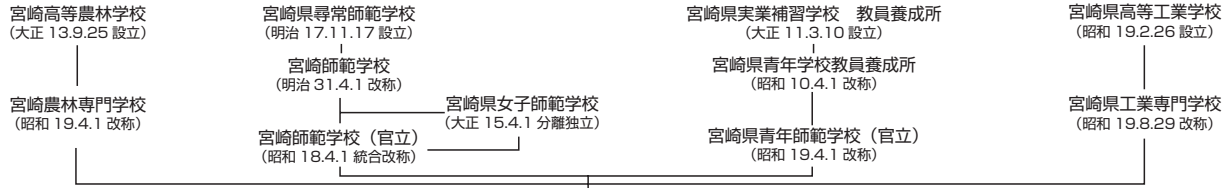
部局等	区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合計
学長		1											1
監事			(1) 2										(1) 2
理事				(1) 5									(1) 5
事務局												147	147
教育文化学部					37	35	13			85		8	108
教育学研究科					7	8				15			
附属幼稚園											7		
附属小学校											28	3	65
附属中学校											27		
医学部					39	27	11	79	4	160		124	284
附属病院					2	7	28	75		112		385	497
工学部					33	38		22		93		28	121
農学部					45	39		13		97		14	111
附属自然共生フィールド 科学教育研究センター					3	2		1	1	7		17	24
附属動物病院					1	1				2			2
附属農業博物館						1				1			1
産学連携センター						2	1	1		4			4
教育研究・地域連携センター						5				5			5
フロンティア科学実験総合 センター					6	2		5		13		11	24
国際連携センター						1	1			2			2
安全衛生保健センター					1	1	1			3		6	9
情報化推進組織							1	1		2		2	4
計		1	(1) 2	(1) 5	174	169	56	197	5	601	62	745	(2) 1,416

※定員内の職員数(ただし、監事(1)・理事(1)については、非常勤で内数)

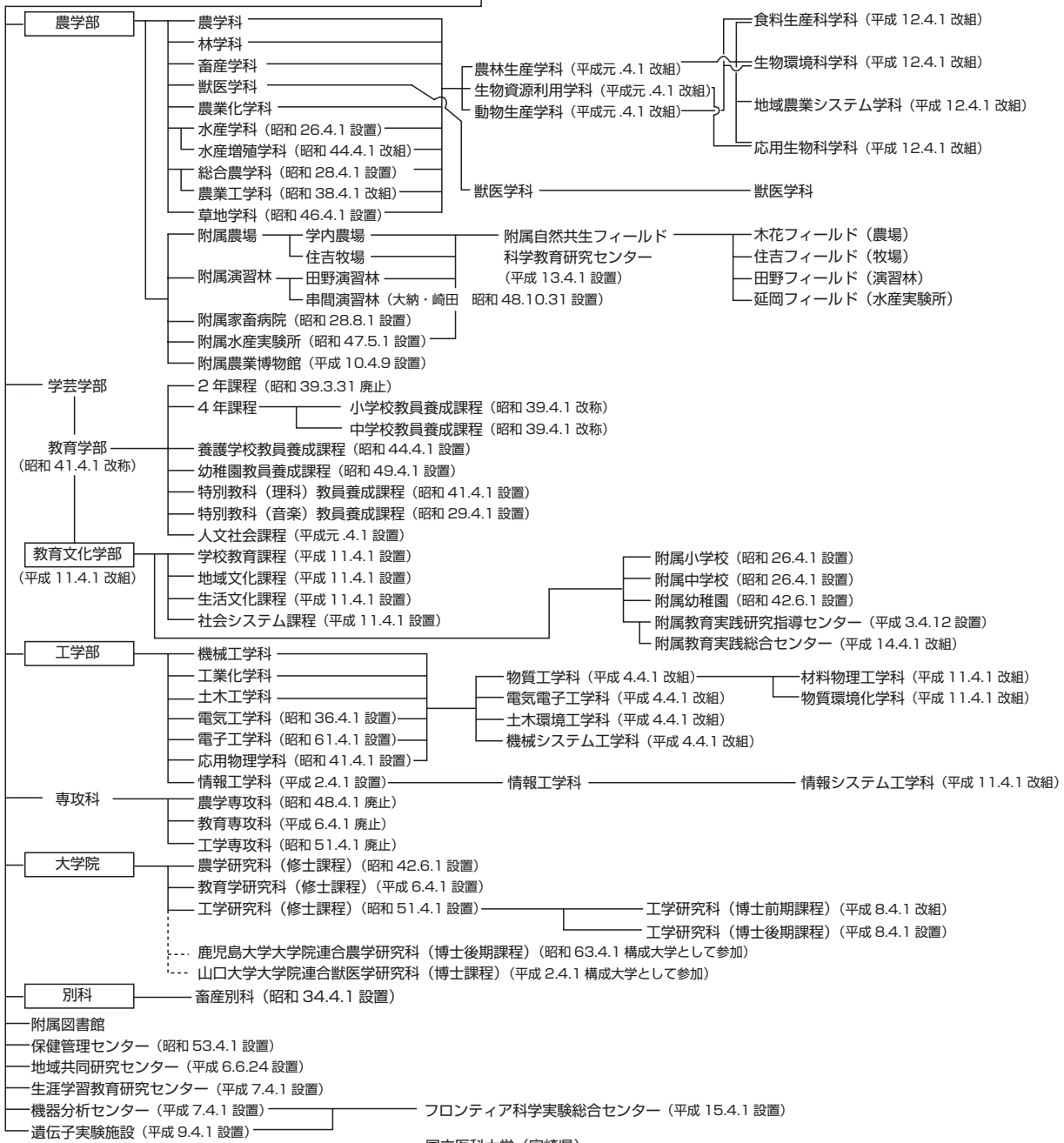
歴代学長

旧宮崎大学			旧宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆道	S24. 5.31 ~ S27. 7.25	(事務取扱)	勝木 司馬之助	S49. 6. 7 ~ S55. 6.30	(事務取扱)
杉原 清一	S27. 7.26 ~ S28. 8. 1		玉井 達二	S55. 7. 1 ~ S61. 3.31	
栗原 一男	S28. 8. 1 ~ S32. 7.31		常俊 義三	S61. 4. 1 ~ S61. 5.31	
甲斐 三郎	S32. 8. 1 ~ S38. 7.31		岡本 直正	S61. 6. 1 ~ H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1 ~ S42. 7.31		木下 和夫	H 2. 4. 1 ~ H 8. 3.31	
廣田 輝雄	S42. 8. 1 ~ S46. 7.31		森満 保	H 8. 4. 1 ~ H14. 3.31	
外山 三郎	S46. 8. 1 ~ S50. 7.31		松尾 壽之	H14. 4. 1 ~ H15. 9.30	
井上 由扶	S50. 8. 1 ~ S56. 7.31				
三善 正市	S56. 8. 1 ~ S58.10.16				
木村 正雄	S58.10.16 ~ S58.11.30		(事務取扱)		
遠藤 尚	S58.12. 1 ~ H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1 ~ H 7.11.30				
二神 光次	H 7.12. 1 ~ H13.11.30				
藤原 宏志	H13.12. 1 ~ H15. 9.30				
宮崎大学					
	住吉 昭信	H15.10.1 ~ H21.9.30			
	菅沼 龍夫	H21.10.1 ~ H25.9.30			

沿革

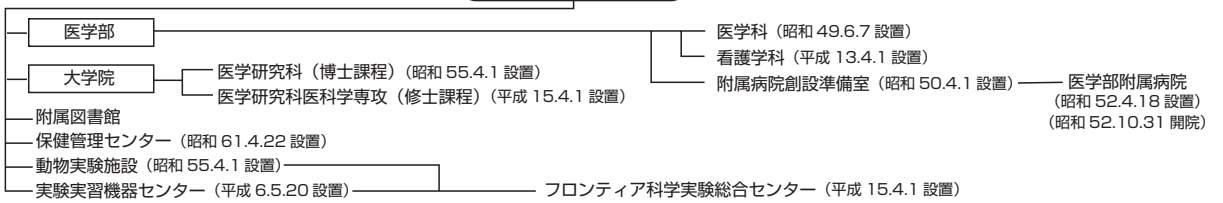


旧宮崎大学 (昭和 24.5.31 設置)

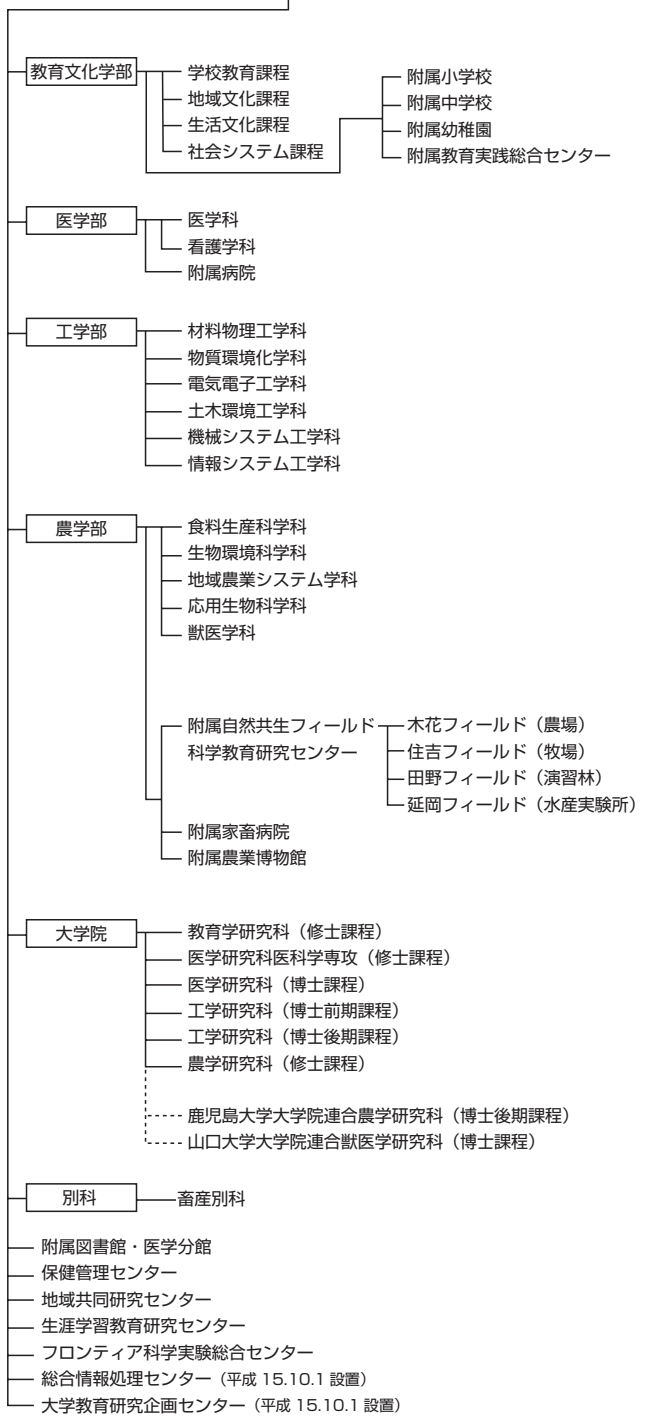


国立医科大学 (宮崎県) 創設準備室 (昭和 48.10.1 設置)

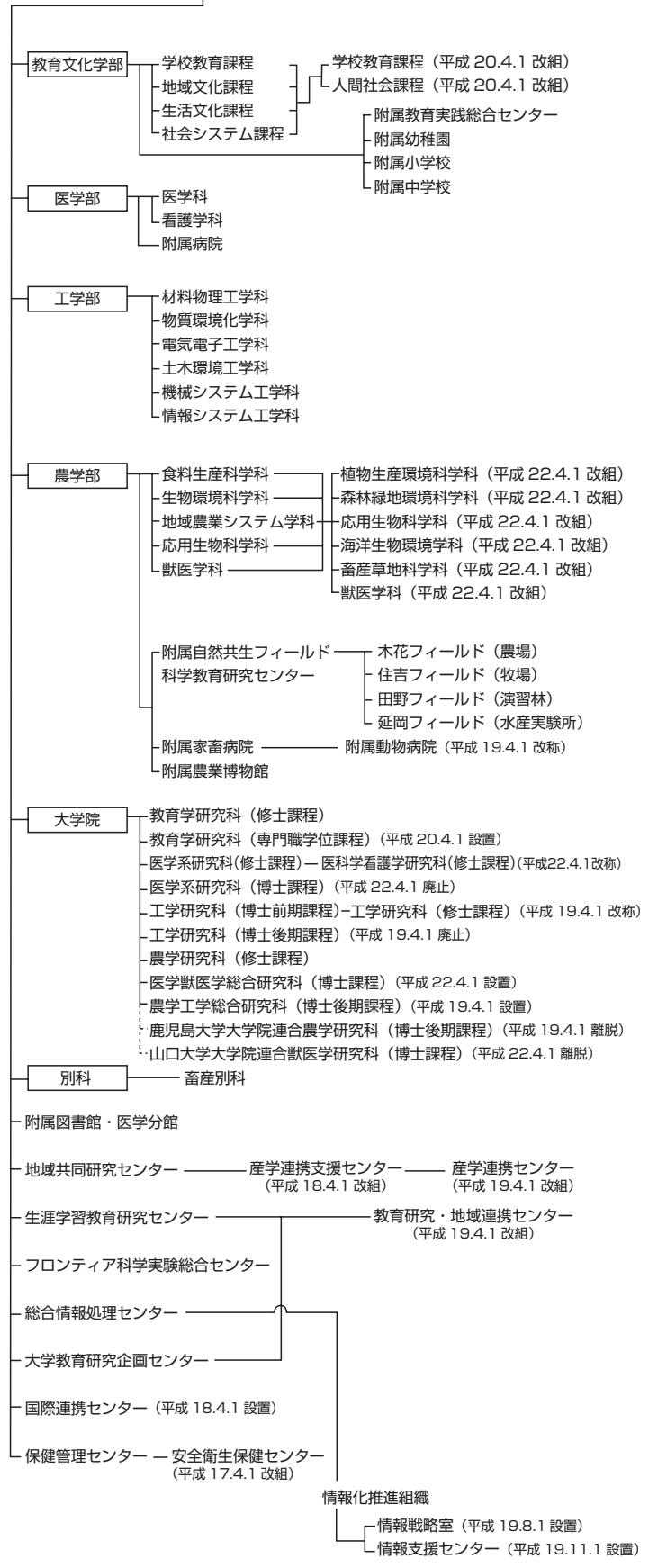
旧宮崎医科大学 (昭和 49.6.7 設置)



新宮崎大学 (平成 15.10.1 統合)



国立大学法人宮崎大学 (平成 16.4.1 法人化)



沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	旧宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39.3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部養護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地球科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10.1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
S49. 6. 7		宮崎医科大学の設置（国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止）
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行
4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学10周年記念式典挙行
11.19	農学部第1次移転完了	
S60. 1.24	農学部第2次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院10周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	

年月日	旧宮崎大学	旧宮崎医科大学
11.11	移転完了記念式典・祝賀会举行	
H 2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H 3. 4. 12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H 4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4. 10		医学部附属病院集中治療部を設置
H 6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5. 20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6. 24	地域共同研究センターを設置	
10. 29		宮崎医科大学開学 20 周年記念式典举行
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
11. 14		医学部附属病院開院 20 周年記念式典举行
H 10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H 11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部へ改称 工学部改組	情報処理センターを設置
5. 28	宮崎大学創立 50 周年記念式典举行	
H 12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H 13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
6. 5		医学部看護学科開設記念式典举行
12. 14	総合研究棟を新築	
H 14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合センターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H 15. 2. 17		特定機能病院として承認
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 （機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止）	大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 （動物実験施設、実験実習機器センターを廃止）
年月日	宮崎大学	
H 15. 10. 1	旧宮崎大学と旧宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止	
H 16. 3. 26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部に設置 総合教育研究棟を新築（清武キャンパス）	
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる	
H 17. 4. 1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）を設置	
H 18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置	
H 19. 4. 1	大学院工学研究科（博士後期課程）を廃止し、農学工学総合研究科（博士後期課程）を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）から離脱 大学院工学研究科（博士前期課程）を大学院工学研究科（修士課程）に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称	
8. 1	情報戦略室を設置	
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置	
12. 26	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを設置	
H 20. 4. 1	大学院教育学研究科（専門職学位課程）を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科（博士課程）を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置	
11. 15	木花キャンパス移転 20 周年記念事業举行	
H 22. 4. 1	大学院医学系研究科（博士課程）を廃止し、医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置 大学院医学系研究科（修士課程）を医科学看護学研究科（修士課程）に改称 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）から離脱 農学部を改組	

学部・大学院等

学部

学部	学科・課程	講座・コース
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース 中学校教育コース 特別支援教育コース
	人間社会課程	言語文化コース 社会システムコース
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学 (分子細胞生物学, 超微形態科学, 神経生物学) 機能制御学 (統合生理学, 応用生理学, 腫瘍生化学, 機能生化学, 薬理学, 心理学, 物理科学, 物質科学) 病理学 (構造機能病理学, 腫瘍・再生病理学) 感染症学 (微生物学, 寄生虫学) 社会医学 (衛生学, 公衆衛生学, 法医学, 生命・医療倫理学, 医療社会学, 数理学, 英語, ドイツ語)
		臨床系医学講座 内科学 (循環体液制御学, 消化器血液学, 神経呼吸内分泌代謝学, 免疫感染病理学) 外科学 (腫瘍機能制御外科学, 循環呼吸・総合外科学, 泌尿器科学) 臨床神経科学 (精神医学, 脳神経外科学) 生殖発達医学 (小児科学, 産婦人科学) 感覚運動医学 (整形外科学, 皮膚科学, 眼科学, 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 顎顔面口腔外科学) 病態解析医学 (放射線医学, 麻酔生体管理学, 救急・災害医学)
	看護学科	基礎看護学講座, 成人・老年看護学講座, 小児・母性(助産専攻)看護学講座, 地域・精神看護学講座
工学部	材料物理工学科	量子システム工学講座, 材料開発工学講座, 構造数理学講座
	物質環境化学科	機能物質化学講座, 資源環境化学講座, 生物物質化学講座
	電気電子工学科	電子基礎工学講座, 電子システム工学講座, 電気エネルギー工学講座
	土木環境工学科	建設構造講座, 環境制御講座, 環境計画講座
	機械システム工学科	設計システム工学講座, エネルギーシステム工学講座
	情報システム工学科	基礎情報科学講座, 産業情報システム講座
農学部	植物生産環境科学科	
	森林緑地環境科学科	
	応用生物科学科	
	海洋生物環境科学科	
	畜産草地科学科	
	獣医学科	

大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (修士課程)	学校教育支援	教育臨床心理専修, 日本語支援教育専修
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発(教職大学院)	学校・学級経営コース, 生徒指導・教育相談コース, 教科領域教育実践開発コース, 教育課程・学習開発コース
医科学看護学研究科 (修士課程)	医科学	
	看護学	修士論文コース(基盤看護学分野(システム看護学領域、地域精神看護学領域)、実践看護学分野(ストレス対処看護学領域、母子健康看護学領域)) 専門看護コース(がん専門看護学分野(がん専門看護学領域))
工学研究科 (修士課程)	応用物理学	量子システム工学講座, 材料開発工学講座, 構造数理学講座
	物質環境化学	機能物質化学講座, 資源環境化学講座, 生物物質化学講座
	電気電子工学	電子基礎工学講座, 電子システム工学講座, 電気エネルギー工学講座
	土木環境工学	建設構造講座, 環境制御講座, 環境計画講座
	機械システム工学	設計システム工学講座, エネルギーシステム工学講座
農学研究科 (修士課程)	情報システム工学	基礎情報科学講座, 産業情報システム講座
	生物生産科学	植物生産科学領域, 動物生産科学領域
	地域資源管理科学	農林資源計画学領域, 生産環境工学領域
	森林草地環境科学	森林科学領域, 草地環境科学領域
	水産科学	水産科学領域
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	応用生物科学	生物機能科学領域, 食品機能化学領域
	医学獣医学	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学	新材料エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情報工学教育コース

寄附講座

部局名	研究部門名	設置期間	寄附者
国際連携センター	地盤環境保全研究部門	平成22年4月1日～平成25年3月31日	地盤環境保全 コンソーシアム
医学部	地域医療学講座	平成22年4月1日～平成26年3月31日	宮崎県

附属図書館

蔵書構成（本館）

（平成22年4月1日現在）

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	17,418	19,998	29,497	98,455	72,171	50,043	34,218	19,300	11,414	28,331	380,845
洋書	4,296	7,682	4,232	16,711	40,783	11,073	9,968	2,224	4,667	12,017	113,653
合計	21,714	27,680	33,729	115,166	112,954	61,116	44,186	21,524	16,081	40,348	494,498

蔵書構成（医学分館）

（平成22年4月1日現在）

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,638	4,743	7,778	4,826	460	717	25,162	12,155	23,389	35,544	20,021	37,002	57,023	4,070	486	4,556	122,285

雑誌情報

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	9,068	1,400
洋雑誌	3,021	1,815
合計	12,089	3,215

開館時間

区分	本館	医学分館
平日	9:00～20:00 (17:00)	9:00～20:00 (17:00)
土曜日	10:00～16:00	13:15～17:00
日曜日	13:00～17:00	13:15～17:00

()内は休業期間中の閉館時間

休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始(12/28-1/4)

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

利用状況

（平成21年度）

区分		本館		医学分館	
入館者(人)		193,798		128,740	
[うち学外者(人)]		[872]		[159]	
貸出	人数(人)	人数(人)	冊数(冊)	人数(人)	冊数(冊)
	学生	12,949	26,748	7,058	10,548
	教職員	1,456	7,502	1,102	1,583
	学外者	382	1,053	38	78
	合計	14,787	35,303	8,198	12,209
レファレンスサービス(件)		2,993		966	
学外文献	依頼(件)	2,179		2,814	
複写	受付(件)	1,473		3,344	

附属病院

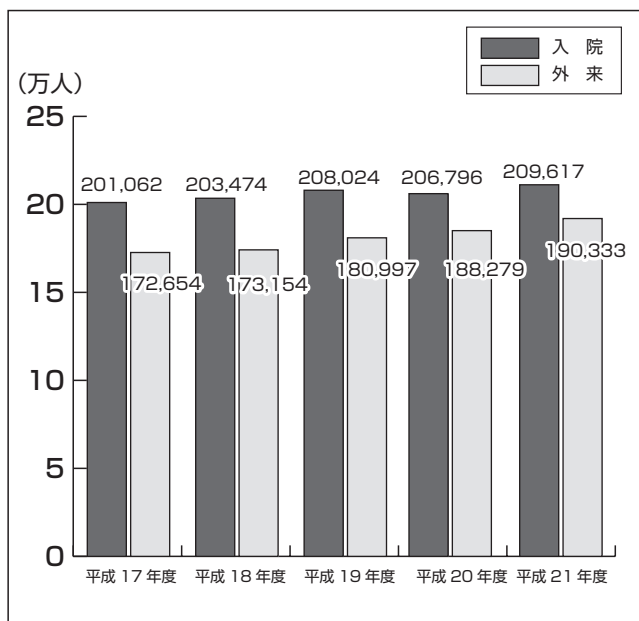
平成21年度附属病院患者数

診療科	入院			外来			
	実在病床数	延患者数	1日平均患者数	初診	再診	延患者数	1日平均患者数
第一内科	49	17,074	46.8	1,954	14,873	16,827	69.5
第二内科	39	15,864	43.5	1,124	10,468	11,592	47.9
膠原病・感染症内科	10	4,267	11.7	512	3,562	4,074	16.8
第三内科	49	17,665	48.4	1,484	11,875	13,359	55.2
精神科	36	10,933	30.0	431	7,366	7,797	32.2
小児科	34	11,327	31.0	843	13,704	14,547	60.1
第一外科	49	18,881	51.7	810	7,323	8,133	33.6
第二外科	49	18,603	51.0	710	6,714	7,424	30.7
整形外科	39	18,211	49.9	2,223	19,459	21,682	89.6
皮膚科	30	8,925	24.5	1,440	10,628	12,068	49.9
泌尿器科	30	9,418	25.8	1,015	11,058	12,073	49.9
眼科	25	10,177	27.9	1,685	13,921	15,606	64.5
耳鼻咽喉科	30	10,558	28.9	1,792	9,326	11,118	45.9
産婦人科	57	18,985	52.0	910	10,471	11,381	47.0
放射線科	22	2,327	6.4	900	2,571	3,471	14.3
麻酔科	6	1,060	2.9	690	3,914	4,604	19.0
脳神経外科	25	8,705	23.8	441	3,007	3,448	14.2
歯科口腔外科	10	4,760	13.0	1,262	8,715	9,977	41.2
救急部	3	1,877	5.1	1,022	113	1,135	4.7
禁煙外来	0			10	7	17	0.1
計	※ 612	209,617	574.3	21,258	169,075	190,333	786.5

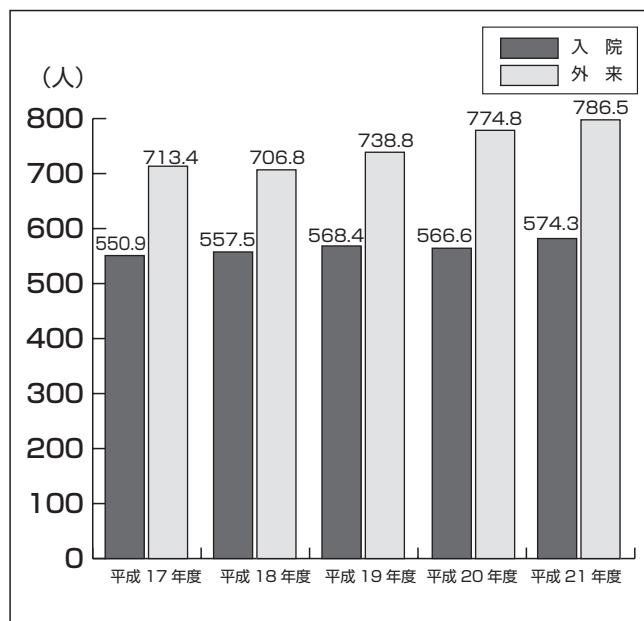
※診療科以外の病床（ICU16床・特別室2床・無菌室2床）を含む

年度別患者数

延患者数



1日平均患者数



学生・生徒・児童及び園児数

1. 学 部

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						計
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
教育文化学部	学校教育課程	150	550	157	153	162	118			590
	人間社会課程	80	240	80	(1) 84	(2) 86				(3) 250
	地域文化課程		30				48			48
	生活文化課程		40				45			45
	社会システム課程		60				(2) 71			(2) 71
	計	230	920	237	(1) 237	(2) 248	(2) 282			(5) 1,004
医学部	医学科	110	615	111	125	106	102	105	94	643
	看護学科	{10} 60	{20} 240	61	64	72	68			265
	計	{10} 170	{20} 855	172	189	178	170	105	94	908
工学部	材料物理工学科	49	196	(1) 51	53	52	70			(1) 226
	物質環境化学科	68	272	(2) 70	70	71	79			(2) 290
	電気電子工学科	88	352	(4) 91	(2) 96	94	(3) 133			(9) 414
	土木環境工学科	58	232	(2) 61	58	(1) 63	93			(3) 275
	機械システム工学科	49	196	(2) 51	(1) 53	(1) 52	76			(4) 232
	情報システム工学科	58	232	61	(1) 64	63	(1) 92			(2) 280
	計	{10} 370	{20} 1,480	(11) 385	(4) 394	(2) 395	(4) 543			(21) 1,717
農学部	植物生産環境科学科	50	50	(2) 54						(2) 54
	森林緑地環境科学科	50	50	(1) 54						(1) 54
	応用生物科学科	55	220	(1) 57	54	59	65			(1) 235
	海洋生物環境学科	30	30	32						32
	畜産草地科学科	50	50	52						52
	獣医学科	30	180	32	31	(1) 31	30	31	37	(1) 192
	食料生産科学科		180		61	59	71			191
	生物環境科学科		195		66	(1) 68	(1) 80			(2) 214
	地域農業システム学科		165		58	59	72			189
	計	265	1,120	(4) 281	270	(2) 276	(1) 318	31	37	(7) 1,213
合計	{20} 1,035	{40} 4,375	(15) 1,075	(5) 1,090	(6) 1,097	(7) 1,313	136	131	(33) 4,842	

() 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第 3 年次編入学定員分を外数

2. 大学院（修士課程）

（平成 22 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	学校教育支援専攻	10	20	(2) 10	(1) 13	(3) 23
	学校教育専攻				1	1
	計	10	20	(2) 10	(1) 14	(3) 24
医科学看護学 研究科	医科学専攻	15	15	10		10
	看護学専攻	10	10	9		9
	計	25	25	19	0	19
医学系研究科	医科学専攻		15		7	7
	看護学専攻		10		14	14
	計		25	0	21	21
工学研究科	応用物理学専攻	15	30	20	18	38
	物質環境化学専攻	21	42	26 (2)	24 (1)	50 (3)
	電気電子工学専攻	27	54	42 (7)	41 (1)	83 (7)
	土木環境工学専攻	18	36	27 (1)	12 (1)	39 (2)
	機械システム工学専攻	15	30	22 (1)	19 (3)	41 (4)
	情報システム工学専攻	18	36	17 (1)	20 (3)	37 (4)
	計	114	228	(11) 154	(5) 134	(16) 288
農学研究科	生物生産科学専攻	16	32	14 (1)	17	31 (1)
	地域資源管理科学専攻	12	24	12	6	18
	森林草地環境科学専攻	10	20	13 (2)	10	23 (2)
	水産科学専攻	10	20	12	12	24
	応用生物科学専攻	20	40	18 (1)	22	40 (1)
	計	68	136	(2) 69	(2) 67	(4) 136
合計			(15) 252	(8) 236	(23) 488	

（ ）内は外国人留学生で内数

3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（平成 22 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員				計
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医学系研究科	医学		40		18	(1) 18		(1) 36
	細胞・器官系		10				24	24
	生体制御系		12			1	(2) 39	(2) 40
	生体防衛機構系		4				2	2
	環境生態系		4				1	1
	計		70	0	18	(1) 19	(2) 66	(3) 103
工学研究科	システム工学					(2) 2		(2) 2
	計					(2) 2		(2) 2
医学獣医学総合 研究科	医学獣医学専攻	23	23	(4) 29				(4) 29
	計	23	23	(4) 29				(4) 29
農学工学 総合研究科	資源環境科学	4	12	(3) 9	(9) 20	(4) 17		(16) 46
	生物機能応用科学	4	12	1	(1) 1	(3) 8		(4) 10
	物質・情報工学	8	24	3	(1) 2	(2) 9		(3) 14
	計	16	48	(3) 13	(11) 23	(9) 34		(23) 70
鹿児島大学大学院 連合農学研究科	生物生産科学		*				(1) 2	(1) 2
	水産資源科学						1	1
	計						(1) 3	(1) 3
山口大学大学院 連合獣医学研究科	獣医学		*	1	(2) 4	1	4	(2) 10

（ ）内は外国人留学生で内数

※平成 19 年度から農学工学総合研究科の設置に伴い、鹿児島大学大学院連合農学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

※平成 22 年度から医学獣医学総合研究科の設置に伴い、山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（平成 22 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	教職実践開発 (教職大学院)	28	56	25	17	42

5. 別 科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	1

6. 科目等履修生・研究生

学部・研究科	科目等履修生	研究生
学部		
教育文化学部	8	13
医学部		
工学部	3	4
農学部	3	3
大学院		
教育学研究科		
医学系研究科		2
工学研究科		
農学研究科		
医学獣医学総合研究科		
農学工学総合研究科		
合計	14	22

7. 附属学校

（平成 22 年 5 月 1 日現在）

	区分	定員				現員				学級数	
		3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計		
附属幼稚園	2 年保育	—	50	50	100	—	50	44	94	計 5 学級	
	3 年保育	20	20	20	60	20	18	19	57		
	計	20	70	70	160	20	68	63	151		
附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		計
	普通学級	120	720	119	116	114	115	113	115	692	各学年 3 学級 計 18 学級
	特別支援学級	4	24	2	2	2	2	2	1	11	計 3 学級 1.2 年、3.4 年、5.6 年
計	124	744	121	118	116	117	115	116	703		
附属中学校	学校区分	定員		現員				学級数			
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計				
	普通学級	160	480	160		160		156	476	各学年 4 学級 計 12 学級	
	特別支援学級	8	24	7		6		3	16	各学年 1 学級 計 3 学級	
計	168	504	167		166		159	492			

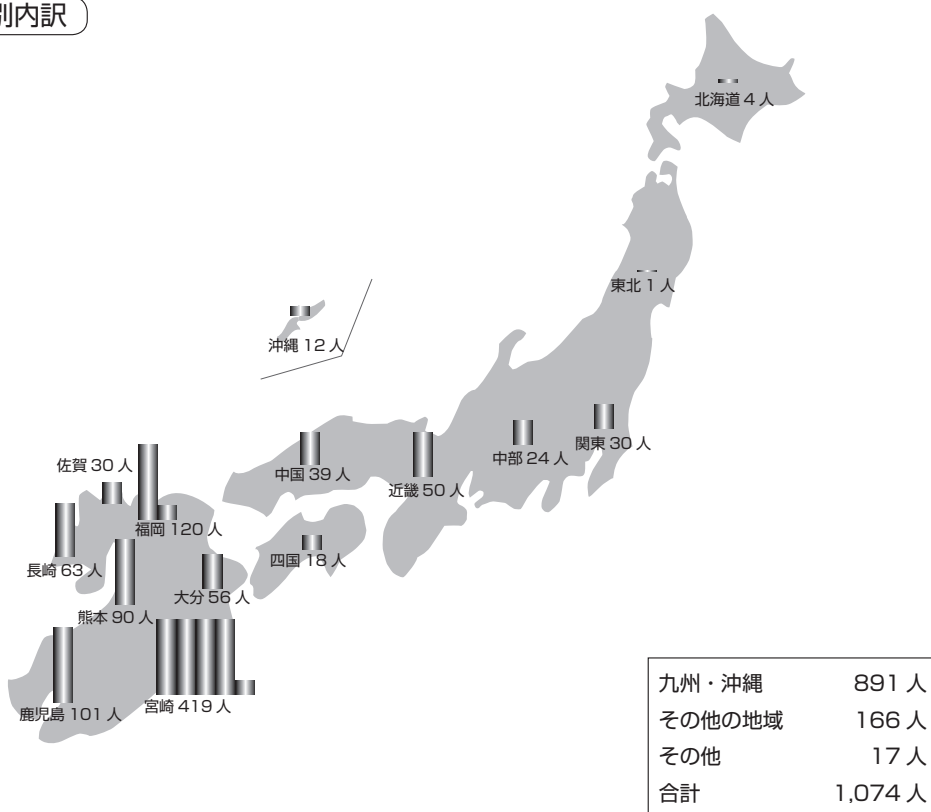
平成 22 年度入学状況

1. 学 部

学部	学科・課程		入学定員		志願者			入学者			
					男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース		75	184	275	459	37	45	82	
		中学校教育コース	国語専攻	6	60	11	8	19	3	4	7
			社会専攻	7		36	4	40	6	1	7
			数学専攻	9		43	15	58	7	2	9
			理科専攻	8		29	14	43	7	1	8
			音楽専攻	5		2	10	12	0	6	6
			美術専攻	4		4	4	8	2	2	4
			保健体育専攻	7		25	9	34	5	2	7
			技術専攻	4		10	2	12	3	1	4
			家庭専攻	4		0	9	9	0	4	4
	英語専攻		6	4		6	10	1	2	3	
		特別支援教育コース	15	12	38	50	3	13	16		
	人間社会課程	言語文化コース	15	80	(1)	(1)	(1)				
社会システムコース		65	9		34	43	2	13	15		
	計			(1)	(3)	(4)					
			230	497	533	1,030	112	125	237		
医学部	医学科		110	(6)	(2)	(8)					
				494	286	780	69	41	110		
	看護学科		60	21	231	252	6	55	61		
	計		170	(6)	(2)	(8)					
				515	517	1,032	75	96	171		
工学部	材料物理工学科		49	(2)		(2)	(1)		(1)		
				275	21	296	49	2	51		
	物質環境化学科		68	(4)	(3)	(7)		(2)	(2)		
				307	99	406	52	18	70		
	電気電子工学科		88	(7)		(7)	(4)		(4)		
				335	8	343	91	0	91		
	土木環境工学科		58	(1)	(4)	(5)	(1)	(1)	(2)		
			275	38	313	54	7	61			
機械システム工学科		49	(10)		(10)	(2)		(2)			
			251	2	253	51	0	51			
情報システム工学科		58	(5)	(2)	(7)						
			206	33	239	52	9	61			
	計		370	(29)	(9)	(38)	(8)	(3)	(11)		
				1,649	201	1,850	349	36	385		
農学部	植物生産環境科学科		50	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)		
				125	100	225	30	24	54		
	森林緑地環境科学科		50	(1)		(1)	(1)		(1)		
				133	63	196	38	16	54		
	応用生物科学科		55		(3)	(3)		(1)	(1)		
				143	129	272	32	25	57		
	海洋生物環境学科		30	(2)		(2)					
			84	40	124	26	6	32			
畜産草地科学科		50	85	95	180	23	29	52			
獣医学科		30		(4)	(4)						
			127	182	309	18	14	32			
	計		265	(4)	(8)	(12)	(2)	(2)	(4)		
				697	609	1,306	167	114	281		
	合 計		1,035	(40)	(22)	(62)	(10)	(5)	(15)		
				3,358	1,860	5,218	703	371	1,074		

() 内は外国人留学生で内数

出身高校所在地域別内訳



2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（修士）	10	4	(2) 14	(2) 18	2	(2) 8	(2) 10
教育学研究科（専門職学位）	28	14	13	27	13	12	25
医科学看護学研究科（修士）	25	6	14	20	5	14	19
工学研究科（修士）	114	(1) 171	(5) 18	(6) 189	(1) 139	(3) 8	(4) 147
農学研究科（修士）	68	(2) 55	(2) 28	(2) 83	(2) 47	(2) 22	(2) 69
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(2) 19	(2) 10	(4) 29	(2) 19	(2) 10	(4) 29
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(1) 8	(1) 2	(1) 10	(1) 8	(1) 2	(1) 10
計	284	(6) 277	(9) 99	(15) 376	(6) 233	(7) 76	(13) 309

() 内は外国人留学生で内数

3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	1	1	2	0	1	1

卒業生・修了者数

1. 学 部

学部	学科・課程	平成21年度 卒業生数	全卒業生数	備考
教育学部	2年課程 第1部		1,050	昭和39年廃止
	2年課程 第2部		267	
	小学校教員養成課程		4,782	
	中学校教員養成課程		2,812	
	養護学校教員養成課程		486	
	幼稚園教員養成課程		602	
	特別教科（理科）教員養成課程		612	
	特別教科（音楽）教員養成課程		984	
	人文社会課程		676	
	計		12,271	
教育文化学部	学校教育課程	101	857	平成11年教育学部を改組
	地域文化課程	27	233	
	生活文化課程	39	329	
	社会システム課程	63	463	
	計	230	1,882	
医学部	医学科	92	2,973	
	看護学科	71	402	
	計	163	3,375	
工学部	機械工学科		1,428	平成4年機械工学科、工業化学科、土木工学科、電気工学科、電子工学科、応用物理学科を改組
	工業化学科		1,297	
	土木工学科		1,577	
	電気工学科		1,191	
	電子工学科		231	
	応用物理学科		921	
	物質工学科		708	
	情報工学科		316	
	材料物理工学科	51	343	
	物質環境化学科	64	518	
	電気電子工学科	82	1,300	
	土木環境工学科	53	796	
	機械システム工学科	46	724	
	情報システム工学科	49	407	
	計	345	11,757	平成11年物質工学科、情報工学科を改組
農学部	農学部 第1部		50	昭和28年廃止
	農学部 第2部		52	
	農学科		1,285	
	林学科		1,081	
	畜産学科		1,068	
	獣医学科	33	1,569	
	農業化学科		1,304	
	水産学科		292	
	水産増殖学科		626	
	総合農学科		302	
	農業工学科		922	
	草地学科		331	
	農林生産学科		1,265	
	生物資源利用学科		625	
	動物生産学科		785	
	食料生産科学科	59	423	
	生物環境科学科	65	456	
	地域農業システム学科	53	358	
	応用生物科学科	52	376	
		計	262	
	合計	1,000	42,455	

外国人留学生を含む

2. 大学院

研究科	平成 21 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科 (修士)	16	493	
医学系研究科 (修士)	22	97	
医学系研究科 (博士)	17	356	
工学研究科 (修士)	114	2,240	
工学研究科 (後期)	6	95	平成 18 年度をもって廃止
農学研究科 (修士)	56	1,717	
農学工学総合研究科 (博士)	8	8	
合計	239	5,006	

専門職大学院

研究科	平成 21 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科 (専門職学位)	27	31	

3. 専攻科

研究科	全修了者数	備考
教育専攻科	119	平成 6 年度をもって廃止
工学専攻科	30	昭和 51 年度をもって廃止
農学専攻科	50	昭和 48 年度をもって廃止
合計	199	

4. 別科

研究科	平成 21 年度修了者数	全修了者数	備考
畜産別科	5	298	

博士の学位授与者数

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

区分	課程博士		論文博士	
	平成 21 年度	累計	平成 21 年度	累計
医学系研究科	18	358	3	204
工学研究科	9	111	0	5
農学工学総合研究科	8	8	0	0

平成21年度就職状況

1. 学部

(平成22年5月1日現在)

区分	卒業生数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育文化学部	230(141)	18(5)	166(116)	83(64)	83(52)	46(20)
医学部	163(96)	1(1)	65(55)	30(25)	35(30)	97(40)
工学部	345(34)	151(12)	167(18)	44(5)	123(13)	27(4)
農学部	262(120)	71(21)	159(83)	51(27)	108(56)	32(16)
合計	1,000(391)	241(39)	557(272)	208(121)	349(151)	202(80)

()内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員(教員)試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

産業別就職状況

(平成22年5月1日現在)

区分	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	合計
農業、林業			1(0)	25(15)	26(15)
漁業					
鉱業、採石業、砂利採取業					
建設業			20(1)	1(0)	21(1)
製造業	11(4)		55(8)	22(10)	88(22)
電気・ガス・熱供給・水道業			12(0)	1(1)	13(1)
情報通信業	7(5)		15(2)	4(0)	26(7)
運輸業、郵便業	3(1)		4(0)		7(1)
卸売業、小売業	11(9)		6(0)	21(12)	38(21)
金融業、保険業	13(11)		1(0)	10(5)	24(16)
不動産業、物品賃貸業	1(0)		1(0)		2(0)
学術研究、専門・技術サービス業	1(1)		16(2)	11(5)	28(8)
宿泊業、飲食サービス業	3(2)		1(0)	5(2)	9(4)
生活関連サービス業、娯楽業	2(1)			9(5)	11(6)
教育、学習支援業	75(57)		5(2)	6(4)	86(63)
医療、福祉	6(6)	65(55)		3(3)	74(64)
複合サービス事業	7(4)			6(2)	13(6)
サービス業	11(9)		8(3)	1(1)	20(13)
公務	15(6)		21(0)	33(18)	69(24)
その他			1(0)	1(0)	2(0)
合計	166(116)	65(55)	167(18)	159(83)	557(272)

()内は女子で内数

2. 大学院

◇(修士・博士前期)課程

(平成22年5月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	43(27)	0(0)	36(21)	31(17)	5(4)	7(6)
医学系研究科	22(18)	1(0)	16(14)	9(9)	7(5)	5(4)
工学研究科	114(13)	3(0)	107(12)	16(2)	91(10)	4(1)
農学研究科	56(20)	0(0)	49(18)	11(5)	38(13)	7(2)
合計	235(78)	4(0)	208(65)	67(33)	141(32)	23(13)

◇(博士後期・一貫)課程

(平成22年5月1日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	17(6)	16(5)	14(4)	2(1)	1(1)
工学研究科	6(0)	4(0)	4(0)	0(0)	2(0)
農学工学総合研究科	8(2)	6(1)	4(1)	2(0)	2(1)
合計	31(8)	26(6)	22(5)	4(1)	5(2)

()内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員(教員)試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

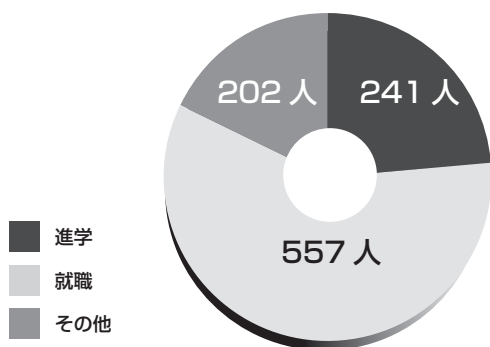
産業別就職状況

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

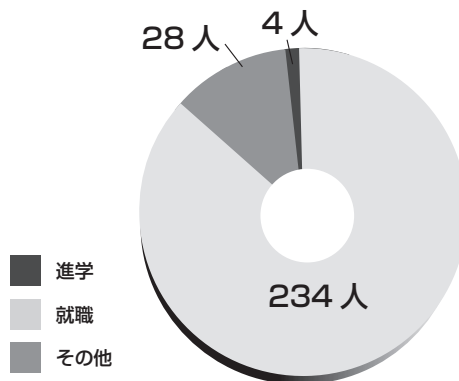
区分	教育学研究科	医学系研究科	工学研究科	農学研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業				5(2)		5(2)
漁業						
鉱業、採石業、砂利採取業						
建設業			5(0)	1(0)		6(0)
製造業		1(0)	69(4)	17(5)	1(0)	88(9)
電気・ガス・熱供給・水道業			6(0)			6(0)
情報通信業			10(5)	2(2)		12(7)
運輸業、郵便業				1(0)		1(0)
卸売業、小売業				5(1)		5(1)
金融業、保険業				1(0)		1(0)
不動産業、物品賃貸業			1(0)			1(0)
学術研究、専門・技術サービス業		2(2)	7(3)	1(0)	1(0)	11(5)
宿泊業、飲食サービス業				1(0)		1(0)
生活関連サービス業、娯楽業			1(0)	1(1)		2(1)
教育、学習支援業	33(19)	4(3)	4(0)	5(2)	1(0)	47(24)
医療、福祉	2(2)	22(12)		1(1)	1(1)	26(16)
複合サービス事業				3(2)		3(2)
サービス業		2(2)	1(0)	1(0)		4(2)
公務		1(0)	7(0)	3(2)	2(0)	13(2)
その他	1(0)			1(0)		2(0)
合計	36(21)	32(19)	111(12)	49(18)	6(1)	234(71)

() 内は女子で内数

進路状況 (学部)



進路状況 (大学院)



奨学生状況

(平成 22 年 2 月 1 日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構			その他の奨学団体	合計 (単位：人)	在学生に 対する割合	
		一種	二種 (きぼう 21 プラン)	(うち併用者)				
学部	教育文化学部	1,002	193	388	(38)	20	563	56.2
	医学部	892	125	335	(54)	47	453	50.8
	工学部	1,681	279	673	(58)	33	927	55.1
	農学部	1,197	221	458	(54)	29	654	54.6
	計	4,772	818	1,854	(204)	129	2,597	54.4
大学院	教育学研究科	73	26	8	(2)	0	32	43.8
	医学系研究科	163	18	6	(3)	0	21	12.9
	工学研究科	251	121	48	(8)	6	167	66.5
	農学研究科	126	62	17	(3)	1	77	61.1
	農学工学総合研究科	49	18	0	0	2	20	40.8
計	662	245	79	(16)	9	317	47.9	
合計	5,434	1,063	1,933	(220)	138	2,914	53.6	

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで、学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

国際交流

1. 外国人留学生数

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講学生			合計
	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	
インド				1									1
ネパール				1		2							3
バングラデシュ				2									2
タイ												1	1
マレーシア		3	4		2								9
インドネシア			1	1		15						1	18
韓国			2			3						4	9
ベトナム			2	1									3
中国			21	2		19	1		2				45
中国(台湾)						1			1			4	6
エジプト						4							4
セネガル				1									1
シエラレオネ				1									1
アメリカ												1	1
ブラジル									2				2
計		3	30	10	2	44	1		5			11	106

2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名	平成 21 年度派遣留学生
交流協定校への留学	中国	南京農業大学	2
	中国	上海交通大学	1
	タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	6
	台湾	国立政治大学	5
	アメリカ	エヴァグリーン州立大学	1
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校医学部	1
	オーストラリア	メルボルン大学獣医学部	1
	ニュージーランド	オタゴ大学	1

3. 外国人研究者受入状況

(平成21年度)

国・地域名	受入部局	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	産学連携センター	教育研究・地域連携センター	フロンティア科学実験総合センター	国際連携センター	合計
インド			2	1	4			1	1	9
ネパール			1	1		2				4
バングラデシュ			2		3	1				6
ミャンマー						1				1
タイ			26		1					27
インドネシア			2	26	2		2			32
韓国	1				6		1		25	33
モンゴル									2	2
ベトナム				1	2	1				4
中国			3	2	6	1				12
中国(台湾)	2									2
シリア			1							1
ヨルダン			2							2
アフガニスタン			2							2
イエメン			1							1
エジプト					2					2
リビア					1					1
オーストラリア					1					1
カナダ			2							2
アメリカ			1						1	2
ブラジル					1					1
フィンランド					1					1
イギリス	1		1							2
ベルギー								5		5
ドイツ	1			1						2
フランス								1		1
イタリア			2							2
合計		5	48	32	30	6	1	9	29	160

4. 外国の大学等との交流一覧

(平成22年5月1日現在)

■大学間交流協定

国・地域名	大学等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日
韓国	嶺南大学校	昭和62. 2. 8	平成17.11.28
スロベニア	リュブリアナ大学	昭和62. 9.30	平成20. 4. 8
韓国	順天大学校	平成元.11.21	平成7. 8.22
中国	南京農業大学	平成2.11.28	平成17.11. 2
タイ	カセサート大学	平成4. 9. 4	平成20.10.14
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	平成7.12.11	平成17. 3. 1 ※(医学部のみ)
中国	上海交通大学	平成11.12.21	平成18. 9. 1
中国	青海大学	平成17. 8.29	平成17. 8.29
インド	インド工科大学カンプール校	平成21. 7.13	
インド	チャトラパティ・シャフジ・マハラジ医科大学	平成21. 7.29	
韓国	全北大学校	平成21.12.15	平成21.12.15
ブラジル	サンパウロ大学農学部ルイス・デ・ケイロス校	平成22. 4.19	平成22. 4.19

■部局間交流協定

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
アメリカ	エヴァグリーン州立大学		昭和61. 7.15	教育文化学部
ニュージーランド	オタゴ大学	平成20. 5. 5	昭和62. 2.10	//
中国(台湾)	東呉大学外国語学院		平成16. 9. 6	//
中国(台湾)	国立政治大学	平成21. 3.23	平成21. 3.23	//
中国	温州医学院	平成12. 3. 8		医学部
中国(台湾)	国立成功大学医学院	平成13. 3.16		//
中国	延辺大学医学院	平成15. 2.12		//
アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校医学部	平成17. 7. 1		//
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	平成5. 2. 1		工学部
インドネシア	ブラウウィジャヤ大学工学部	平成16. 4. 5	平成17. 9.26	//
フィリピン	セントラル・ルソン国立大学	昭和63. 1.12	平成19.10. 1	農学部
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	昭和63. 1.26	平成8. 4.12	//
イギリス	スターリング大学養殖研究所	平成2. 8.23		//
インドネシア	ボゴール農科大学	平成4. 8.31	平成9. 9. 9	//
中国	中国農業大学	平成6.10.22	平成19. 6.25	//
インドネシア	ハサヌディン大学	平成7. 2. 6	平成19. 7. 2	//
フィリピン	フィリピン大学ロス・バニョス校	平成8. 3.25	平成18. 3. 3	//
オーストラリア	メルボルン大学獣医学部	平成10.11. 2		//
タイ	キング・モンクット工科大学生物資源技術学部	平成11. 7.21		//
アルゼンチン	ブエノスアイレス大学農学部	平成13. 1.11	平成18. 3. 3	//
モンゴル	モンゴル国立農業大学	平成15.10.17	平成20. 9.12	//
ベトナム	ハノイ農業大学	平成17. 5.30	平成17. 5.30	//
ネパール	トリバン大学中央図書館	平成20. 3. 3		附属図書館

平成21年度公開講座実施状況

● 本学による公開講座

講座等の名称	実施期間	開講回数	総時間数	受講対象	受講者数	実施場所
世界経済でいま何が起きているのか？ －なぜ世界金融危機が繰り返すのか？今後は何が違うのか？－	6/27	1回	3	一般	8	カリノー宮崎8階ガガ8
宮崎大学農学部の教育と研究 －食料・環境・生命科学への取り組み－	4/18	1回	2.5	一般・高校生	67	カリノー宮崎8階ガガ8
日本語教師養成講座 －日本語教師のための日本語学－	4/18～10/31	20回	40	一般・教職員	10	教育文化学部444教室
【高校生むけ】世界経済でいま何が起きているのか？ －なぜ世界金融危機が繰り返すのか？今後は何が違うのか？－	6/20	1回	3	高校生	52	カリノー宮崎8階ガガ8
木々の見分け方・名前のおぼえ方	5/9	1回	8	一般	19	田野フィールド
親子でお芋を育てて食べてみよう	5/17～12/20	6回	12	小学生低学年以下の家族	38	木花フィールド
源氏物語～胡蝶巻を読む～	5/30～2/20	15回	22.5	一般	42	教育研究・地域連携センター
蘭田潤子・早野慎吾の上手な話し方講座	6/7～7/19	7回	14	一般	7	カリノー宮崎8階ガガ8
食と健康：あなたは大丈夫ですか！	7/13～7/17	5回	10	一般	115	J A・A Z Mホール
農場を利用した楽しい野菜栽培	7/27～2/22	8回	12	一般・宮崎大学学生	35	木花フィールド
夏休み酪農体験	7/29・8/26	2回	6	小学校高学年	15	住吉フィールド
第8回 みやざき夏期大学	8/3～8/6	4回	8	一般	46	J A・A Z Mホール
第3種電気主任技術者試験受験対策講習会	8/6	1回	8	高校生	17	カリノー宮崎8階ガガ8
学生・教職員資格取得支援講座(1) 水質関係第4種公害防止管理者について学ぶ講座	8/6～9/25	4回	24	一般・宮崎大学学生	18	工学部A116講義室
学生・教職員資格取得支援講座(2) 水質関係第1種公害防止管理者について学ぶ講座	8/6～9/25	4回	2	一般・宮崎大学学生	4	工学部B107講義室
社会人のための水質関係第1種公害防止管理者国家試験学習講座	8/22～9/26	6回	35	一般	9	宮崎市民プラザ中会議室
あなたが作る美味しい野菜	8/20～12/17	7回	17.5	一般	9	木花フィールド
ナースのためのブラッシュアップ講座	10/3～10/24	5回	9	看護職者	53	総合教育研究棟 プレゼンテーションホール
看護師が行う呼吸理学療法・集中ケア	11/14・11/15	2回	10.5	看護職者	70	総合教育研究棟
化学物質の安全な取り扱い方	10/24～11/7	4回	12	一般	2	工学部B203教室
学びませんか？ 人と環境に優しい果樹・花木栽培(基礎編)	11/19～2/25	7回	14	一般・宮崎大学学生	10	木花フィールド
資格取得支援講座(Ⅱ) 環境計量士について学ぶ講座	11/28～12/23	4回	24	一般・宮崎大学学生	12	工学部B203教室
努力が実を付ける果樹の剪定講座 (終日4日間集中コース編)	11/24～2/19	4回	20	一般・宮崎大学学生	4	木花フィールド
「耳の日」市民講座(講演会・相談会)	3/7	1回	3	一般	65	カリノー宮崎8階ガガ8

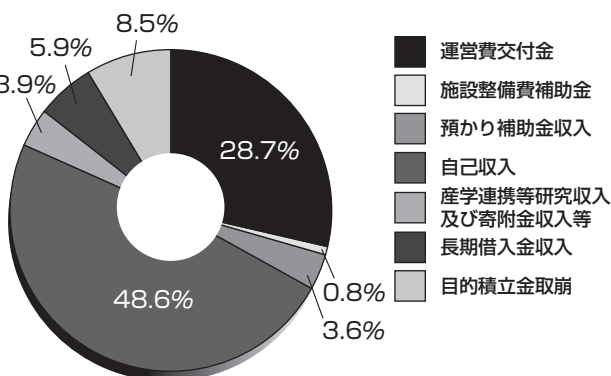
平成21年度経理状況

●決算額

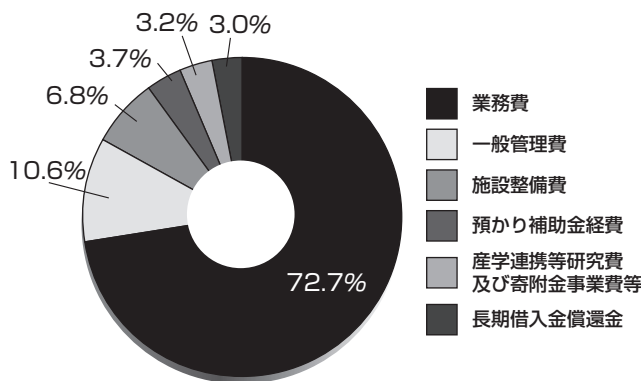
単位：円

収入		支出			
運営費交付金	10,331,052,475	業務費	教育研究経費	9,286,437,582	
施設整備費補助金（施設費交付金を含む）	275,415,262		診療経費	16,192,753,314	
施設整備資金貸付金償還時補助金	0	一般管理費		3,714,492,298	
預かり補助金収入	1,280,689,854	施設整備費		2,390,732,262	
自己収入	授業料及び入学金検定料収入	3,250,614,410	預かり補助金経費	1,280,689,854	
	附属病院収入	13,678,487,398	産学連携等研究費及び寄附金事業費等	寄附金事業経費	302,814,308
	財産処分収入	0		受託研究等経費	630,818,138
	雑収入	518,295,762		受託事業等経費	177,418,758
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	寄附金収入	547,992,087	著作権及び特許料等収入	6,187,906	
	受託研究等収入	676,600,148	長期借入金償還金	1,051,803,455	
	受託事業等収入	164,358,561	国立大学財務・経営センター施設費納付金	0	
	著作権及び特許料等収入	3,579,303			
引当金取崩	0				
長期借入金収入	2,115,317,000				
承継剰余金	1,000,000				
目的積立金取崩	3,072,111,562				
合計	35,915,513,822	合計		35,034,147,875	

■ 収入



■ 支出

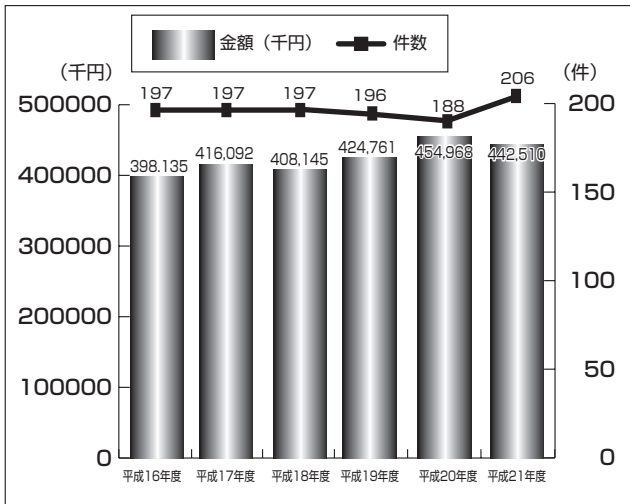


●科学研究費補助金採択状況

(平成21年度)

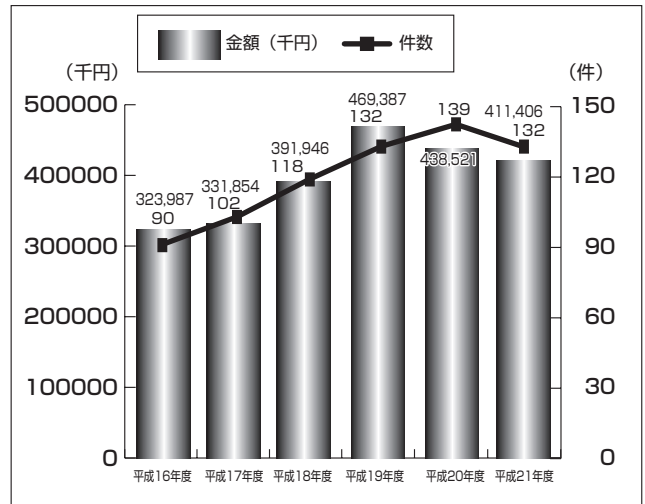
研究種目	採択件数	金額(千円)
特定領域研究	7	56,400
新学術領域研究	1	10,660
基盤研究(S)	1	20,020
基盤研究(B)	17	79,040
基盤研究(C)	93	142,308
挑戦的萌芽研究	17	19,500
若手研究(B)	55	103,019
若手研究(スタートアップ)	1	1,443
特別研究員奨励費	12	9,300
奨励研究	2	820
計	206	442,510

●科学研究費補助金受入状況

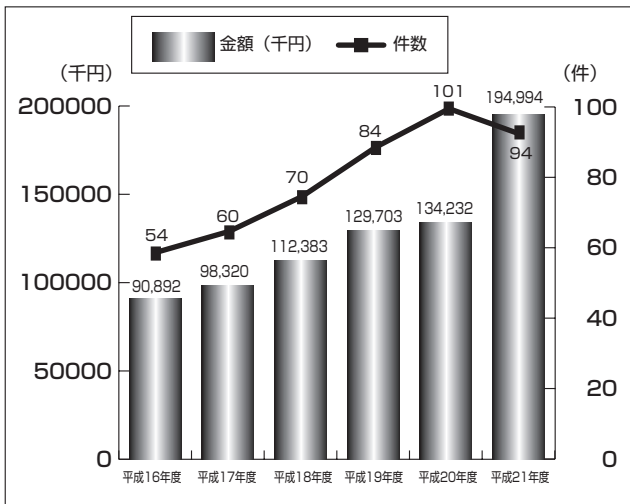


※平成16年度～平成18年度は奨励研究・研究成果公開促進費を除く

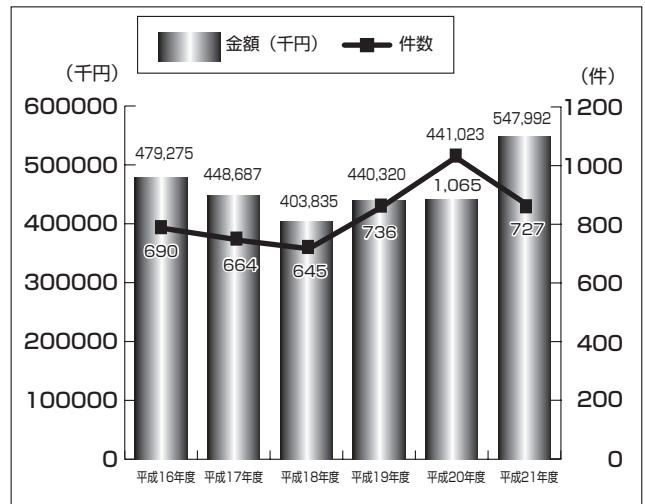
●受託研究受入状況



●共同研究実施状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(平成21年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術総合推進費補助金 (科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業) (科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業)	2	199,491
研究開発施設共用等促進費補助金 (ナショナルバイオリソースプロジェクト(中核的拠点整備プログラム))	1	27,000
厚生労働省科学研究費補助金	5	93,981
環境省科学研究費補助金	1	35,199
国公立大学を通じた大学教育改革の支援(GP)	2	70,746

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学執行額を記載(間接経費を含む)

学生関係施設

●大学会館

建物名称	階別	室名	用途等
大学会館	地下1	売店	文房具・書籍・日用品等購買
	1	食堂・就職情報資料室・ホール・インフォメーションコーナー	食堂（830席）・資料室・ホール
		軽食堂	喫茶・食事（72席）
	2	学務部長室	
		教務課	
		学生支援課	
	3	共通教育部長室	
		会議室	
		学生なんでも相談室	
		キャリアアドバイザー室	
		共通教育部	
		作業室兼会議室	
		倉庫	

●学生寄宿舎及び国際交流寄宿舎

名称	区分	構造	入居定員（名）
男子寄宿舎		鉄筋5階建	100
女子寄宿舎		鉄筋5階建	100
国際交流寄宿舎		鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流寄宿舎Ⅱ		鉄筋4階建	8
農学部住吉寄宿舎		木造平屋	20
合計			395

●体育施設・課外活動施設

◇木花キャンパス

施設名	種目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・クレイ・オムニ）	テニス・ソストテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール
プール（50m）	水泳
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室 文化系（音系）サークル共用室

◇清武キャンパス

施設名	種目
多目的グラウンド	陸上競技・準硬式野球
球技コート	サッカー・ラグビー
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソストテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道
（福利棟内） 音楽鑑賞室 和室	文化系クラブ及び学生の集会等

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考	
		建面積	延面積		
【木花地区】	839,592	40,472	112,653	※安全衛生保健センターを含む	
事務局	}	1,007	3,274	※附属教育実践総合センターを含む	
中央機械棟		430	430		
門衛所		64	64		
大学会館		1,483	3,362		
体育館・器具庫		3,190	3,617		
教育文化学部		8,354	25,150		
工学部		7,001	22,288		
農学部		9,623	30,352		
農学部		5,791	25,136		
農学部附属自然共生フィールド科学 教育研究センター木花フィールド(農場)		2,258	2,615		
附属動物病院		1,157	1,843		
附属農業博物館		417	758		
附属図書館		778,523	1,829		4,977
産学連携センター(産学連携施設)		1,178	2,013		
産学連携センター(機器分析支援施設)		385	1,114		
教育研究・地域連携センター		467	819		
フロンティア科学実験総合センター 遺伝資源分野		382	1,510		
フロンティア科学実験総合センター R I 分野 R I 木花分室		311	367		
情報戦略室・情報支援センター		662	1,254		
総合研究棟		750	1,421		
寄宿舎	931	3,691			
国際交流宿舎	835	4,687			
課外活動施設	1,114	1,840			
実験排水処理施設	226	173			
農学部水田	61,069	250	250		
【清武地区】	224,316	36,876	118,236		
医学部	}	11,076	34,539		
医学部事務局・フロンティア科学実験総合センター等		23,047	73,489		
医学部附属病院		854	1,715		
附属図書館医学分館		1,899	8,493		
総合教育研究棟					
【花殿・船塚地区】	65,295	9,478	16,808		
教育文化学部附属幼稚園	}	1,058	913		
木犀会館		132	132		
教育文化学部附属小学校	}	3,613	7,162		
教育文化学部附属中学校		3,916	7,310		
特別支援学級	3,518	759	1,291		
【その他】	6,694,881	7,307	8,471		
農学部附属自然共生フィールド科学 教育研究センター	}	500,680	6,412		
住吉フィールド(牧場)		6,188,097	990		
田野フィールド(演習林)		6,104	1,069		
延岡フィールド(水産実験所)					
職員宿舎	32,250	4,538	18,424		
職員宿舎(四)	1,295	360	1,800	(木原職員宿舎敷地内)	
職員宿舎(五)	1,360	232	232		
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330		
木原職員宿舎	10,494	1,261	4,178		
西新町職員宿舎	8,395	1,221	4,884		
保育施設(くすの木保育園)	973	252	225		
計	7,857,307	98,923	274,817		

施設所在地

●木花キャンパス

0985-58-7111 (番号案内)

名称	所在地	電話番号
事務局		0985(58)2854
教育文化学部		0985(58)2889
附属教育実践総合センター		0985(58)5287
工学部		0985(58)2871
農学部		0985(58)2875
附属自然共生フィールド科学教育研究センター 木花フィールド(農場)		0985(58)7154
附属動物病院		0985(58)7286
附属農業博物館		0985(58)2898
附属図書館		0985(58)7147
産学連携センター	〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地	0985(58)4017
機器分析支援部門		0985(58)7144
教育研究・地域連携センター		0985(58)7427
フロンティア科学実験総合センター 遺伝資源分野		0985(58)7580
R1分野 R1木花分室		0985(58)2877
国際連携センター		0985(58)7781
安全衛生保健センター		0985(58)3423
情報戦略室・情報支援センター		0985(58)2867
清武Athenaサポート室(木花)		0985(58)7508
男子寄宿舎		0985(58)5005
女子寄宿舎	0985(58)4701	
国際交流宿舎	0985(58)5000	

●清武キャンパス

0985-85-1510 (代表)

名称	所在地	電話番号
医学部		0985(85)1510
附属病院		0985(85)1510
附属図書館医学分館		0985(85)9198
フロンティア科学実験総合センター 生理活性物質探索分野	〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地	0985(85)9427
生体機能制御分野		0985(85)3127
生命環境科学分野		0985(85)0871
生物資源分野		0985(85)2971
分子形態・機能解析分野		0985(85)1784
R1分野 R1清武分室		0985(85)1514
安全衛生保健センター分室		0985(85)2392
清武Athenaサポート室(清武)		0985(85)1252

●教育文化学部

名称	所在地	電話番号
附属幼稚園	〒880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地	0985(24)6707
附属小学校	〒880-0026 宮崎市花殿町7番49号	0985(24)6706
附属中学校	〒880-0026 宮崎市花殿町7番67号	0985(25)1122

●農学部

名称	所在地	電話番号
附属自然共生フィールド科学教育研究センター 住吉フィールド(牧場)	〒880-0121 宮崎市大字島之内10100-1	0985(39)1034
田野フィールド(演習林)(田野地区)	〒889-1702 宮崎市田野町乙11300	0985(86)0036
(大納地区)	〒888-0221 串間市大字大納字平原1885	連絡先 0987(76)2107 松下広幸方
(崎田地区)	〒888-0009 串間市大字崎田字名切4270	
延岡フィールド(水産実験所)	〒889-0517 延岡市赤水町376-6	0982(37)0327

●その他

名称	所在地	電話番号
サテライト・オフィス(移設中:平成22年8月オープン予定)	〒880-0001 宮崎市橘通西3-3-24 MCCビル1階	090(9074)6487
医学部附属病院歯科口腔外科橘通りクリニック	〒880-8586 宮崎市橘通西3-10-32 ボンベルタ橘東館8階	0985(65)6480
くすの木保育園	〒889-1601 宮崎市清武町木原5600番地	0985(84)2211



平成22年度
国立大学法人 宮崎大学概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
URL <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

[編集発行]
国立大学法人宮崎大学広報戦略室
TEL(0985)58-7114 FAX(0985)58-2818

平成22年7月発行

